

地域共生学科介護福祉コース

| 分類 | 授業科目 | 方法 | 必修 | 選択 | 年次 | 期 |
|--------|----------------|----|----|----|----|---|
| 基礎教育科目 | 大学教育入門 | 講義 | 1 | | 1 | 前 |
| | 社会人基礎入門(地域と大学) | 講義 | 1 | | 1 | 前 |
| | 茶道文化Ⅰ | 演習 | 1 | | 1 | 前 |
| | 茶道文化Ⅱ | 演習 | 1 | | 1 | 後 |
| | 茶道文化Ⅲ | 演習 | 1 | | 2 | 前 |
| | 茶道文化Ⅳ | 演習 | 1 | | 2 | 後 |
| | 地域と人々 | 実習 | 2 | | 1 | 通 |
| | 地域と職業 | 講義 | 2 | | 1 | 後 |
| | 基礎化学 | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | 基礎化学実習 | 実習 | | 1 | 1 | 前 |
| | 心理学 | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | ビジネスマナー | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | 文書資料講読 | 講義 | | 2 | 1 | 後 |
| | 福祉文化 | 演習 | | 1 | 2 | 後 |
| | コンピュータ演習Ⅰ | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | コンピュータ演習Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | 後 |
| | Office総合演習 | 演習 | | 1 | 2 | 後 |
| | 英語コミュニケーションⅠ | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | 英語コミュニケーションⅡ | 演習 | | 1 | 1 | 後 |
| | フランス語Ⅰ | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | フランス語Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | 後 |
| | 日本語Ⅰ | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | 日本語Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | 後 |
| | スポーツ実習 | 実習 | | 1 | 1 | 後 |
| スポーツ科学 | 講義 | | 2 | 2 | 後 | |

| 分類 | 授業科目 | 方法 | 必修 | 選択 | 年次 | 期 |
|--------|-----------------|----|----|----|-----|-----|
| 専門教育科目 | 人間の尊厳と自立 | 講義 | | 2 | 1 | 後 |
| | 人間関係とコミュニケーション | 講義 | | 2 | 2 | 前 |
| | 人間関係とコミュニケーションⅠ | 講義 | | 2 | 2 | 前 |
| | 人間関係とコミュニケーションⅡ | 講義 | | 2 | 2 | 後 |
| | 社会の理解Ⅰ | 講義 | | 1 | 1 | 後 |
| | 社会の理解Ⅱ | 講義 | | 2 | 2 | 前 |
| | 社会の理解Ⅲ | 講義 | | 1 | 2 | 後 |
| | 介護の基本A | 講義 | | 4 | 1 | 通 |
| | 介護の基本B | 講義 | | 4 | 1 | 通 |
| | 介護の基本C | 講義 | | 4 | 2 | 通 |
| | コミュニケーションA | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | コミュニケーションB | 演習 | | 1 | 1 | 後 |
| | 生活支援技術A | 演習 | | 4 | 1 | 通 |
| | 生活支援技術B | 演習 | | 2 | 1 | 前 |
| | 生活支援技術C | 演習 | | 2 | 2 | 通 |
| | 生活支援技術D | 演習 | | 2 | 2 | 通 |
| | 介護過程Ⅰ | 演習 | | 1 | 1 | 前 |
| | 介護過程Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 | 後 |
| | 介護過程Ⅲ | 演習 | | 2 | 1・2 | 後・前 |
| | 介護過程Ⅳ | 演習 | | 1 | 2 | 通 |
| | 介護総合演習Ⅰ | 演習 | | 2 | 1 | 通 |
| | 介護総合演習Ⅱ | 演習 | | 2 | 2 | 通 |
| | 介護実習Ⅰ | 実習 | | 5 | 1 | 通 |
| | 介護実習Ⅱ | 実習 | | 5 | 1・2 | 後・前 |
| | こころとからだA | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | こころとからだB | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | こころとからだC | 講義 | | 2 | 1 | 後 |
| | こころとからだD | 講義 | | 2 | 2 | 前 |
| | 発達と老化の理解Ⅰ | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | 発達と老化の理解Ⅱ | 講義 | | 2 | 1 | 後 |
| | 認知症の理解A | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | 認知症の理解B | 講義 | | 2 | 1 | 後 |
| | 障害の理解Ⅰ | 講義 | | 2 | 1 | 前 |
| | 障害の理解Ⅱ | 講義 | | 2 | 1 | 後 |
| 医療的ケアA | 講義 | | 2 | 2 | 前 | |
| 医療的ケアB | 講義 | | 2 | 2 | 前 | |
| 医療的ケアC | 実習 | | 2 | 2 | 後 | |

| | |
|-----------------|--------|
| 講義科目名称：人間の尊厳と自立 | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 2 | 選択 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 藤島法仁 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 人間の尊厳と自立のあり方について学ぶ。本講義では、①人権・福祉理念の変遷について理解できる、②人権と尊厳に関する諸規定を説明できる、③人間の尊厳と利用者主体を理解できる、④自立について説明できる、⑤尊厳と自立支援の関係性を理解できることを目標とする。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-----------------|--|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権・福祉理念の変遷について理解できる。 ・人権と尊厳に関する諸規定を説明できる。 ・人間の尊厳と利用者主体を理解できる。 ・自立について説明できる。 ・尊厳と自立支援の関係性を理解できる。 | 定期試験 | 70% |
| コミュニケーション能力 | 利用者の主体性を重視した声かけを理解できる。 | グループディスカッション | 10% |
| 課題解決能力 | 介護保険法における尊厳と自立について考えることができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 尊厳を重視した介護の重要性を理解し、積極的な学習ができる。 | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|----------------|----------------------------|---|
| 1 回目 | 人間の尊厳と利用者主体 | 人間の尊厳と利用者主体の関係について理解する。 | 予習：人権思想の潮流を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 2 回目 | 人権思想の潮流 | 人権思想のこれまでの流れを説明する。 | 予習：人権や尊厳に関する諸規定を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 3 回目 | 人権や尊厳に関する諸規定 | 日本の諸規定にみられる人権と尊厳について説明する。 | 予習：戦前の援助にみられる人権と福祉理念を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 4 回目 | 人権・福祉理念の変遷 | 戦前の援助にみられる人権と福祉理念について説明する。 | 予習：戦後の援助にみられる人権と福祉理念を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 5 回目 | 人権・福祉理念の変遷 | 戦後の援助にみられる人権と福祉理念について説明する。 | 予習：権利について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 6 回目 | 人権尊重と権利擁護 | 利用者の権利について理解する。 | 予習：介護保険法を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 7 回目 | 介護保険法における尊厳と自立 | 介護保険法における尊厳と自立について理解する。 | 予習：自立概念の多様性を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 8 回目 | 自立概念の多様性 | 自立のさまざまな側面を理解する。 | 予習：自立についてを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返 |

| | | | |
|------|----------------------|------------------------|---|
| | | | り理解を深めておくこと。 |
| 9回目 | 自立について | 自立と自己決定の関係について理解する。 | 予習：介護を必要とする人の自立と自立支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 10回目 | 介護を必要とする人の自立と自立支援 | 介護における自立支援が目指すものを理解する。 | 予習：ICF について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 11回目 | 介護を必要とする人の自立と自立支援 | 自立支援と ICF の関係を説明する。 | 予習：尊厳を損なう介護について考えておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 12回目 | 介護を必要とする人の尊厳と自立支援の関係 | 尊厳を損なう介護について理解する。 | 予習：尊厳を守る介護について考えておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 13回目 | 介護を必要とする人の尊厳と自立支援の関係 | 尊厳を守る介護について理解する。 | 予習：主体性について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 14回目 | 利用者の主体性を大切にした声かけ | 利用者の主体性を大切にした声かけを理解する。 | 予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 15回目 | まとめ | | |
| 16回目 | 定期試験 | | |
| | | | |

| | |
|---------------------------|------------------|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書『人間の理解』（中央法規） |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |

| | |
|----------|----------|
| オフィスアワー | 水・木の5限目。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|-----------------------|--------|
| 講義科目名称：人間関係とコミュニケーション | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 2年 | 2 | 選択 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 藤島法仁 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 人間関係におけるコミュニケーションの機能と取り方について学ぶ。本講義では、①人間関係について説明できる、②コミュニケーションの機能と構造について説明できる、③コミュニケーションの手段を説明できる、④対人援助関係におけるコミュニケーションの取り方を理解できる、⑤組織におけるコミュニケーションの取り方を理解できることを目標とする。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|---|---|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係について説明できる。 ・コミュニケーションの機能と構造について説明できる。 ・コミュニケーションの手段を説明できる。 | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | 組織におけるコミュニケーションの取り方を理解できる。 | グループディスカッション | 30% |
| 課題解決能力 | 対人援助関係におけるコミュニケーションの課題についてレポートをまとめることができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | | | |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| 本授業では、定期試験 60%、グループディスカッション 30%、レポート 10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-------------------|--------------------------------|---|
| 1回目 | 人間と人間関係 | 自分と他者の理解について理解する。 | 予習：ストレスについて調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 2回目 | 人間と人間関係 | 人間関係とストレスについて理解する。 | 予習：他者をどのように認識しているか考えておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 3回目 | 人間と人間関係 | グループワーク① 自分と他者の認識のずれについて考える。 | 予習：コミュニケーションの概念を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 4回目 | 対人関係におけるコミュニケーション | コミュニケーションの概念について説明する。 | 予習：コミュニケーションの構造を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 5回目 | 対人関係におけるコミュニケーション | コミュニケーションの構造について説明する。 | 予習：援助的人間関係の形成を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 6回目 | 対人関係におけるコミュニケーション | 援助的人間関係の形成について説明する。 | 予習：自分を取り巻く様々な関係性について考えておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 7回目 | 対人関係におけるコミュニケーション | グループワーク② 関係性によるあいさつの違いについて考える。 | 予習：対人援助関係とコミュニケーションの関係を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 8回目 | 対人援助関係とコミュニケーション | 対人援助関係とコミュニケーションの関係について説明する。 | 予習：対人援助における基本的態度を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 9回目 | 対人援助関係とコ | 対人援助における基本的態度について | 予習：援助的人間関係の形 |

| | | | |
|------|------------------|---|--|
| | コミュニケーション | 説明する。 | 成を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 10回目 | 対人援助関係とコミュニケーション | 援助的人間関係の形成について説明する。 | 予習：バイステックの7つの原則を確認しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 11回目 | 対人援助関係とコミュニケーション | グループワーク③ 傾聴について考える。バイステックの7つの原則について考える。 | 予習：組織におけるコミュニケーションの特徴を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 12回目 | 組織におけるコミュニケーション | 組織におけるコミュニケーションの特徴について説明する。 | 予習：組織における情報の流れを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 13回目 | 組織におけるコミュニケーション | 組織における情報の流れについて説明する。 | 予習：組織において求められるコミュニケーションを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 14回目 | 組織におけるコミュニケーション | 組織において求められるコミュニケーションについて説明する。 | 予習：ブレインストーミングについて調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 15回目 | 組織におけるコミュニケーション | グループワーク④ ブレインストーミングをやる。 | 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 16回目 | 定期試験 | | |
| | | | |

| | |
|---------------------------|------------------|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書『人間の理解』（中央法規） |

| | |
|----------|----------|
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 水・木の5限目。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|----------------|--------|
| 講義科目名称：社会の理解 I | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 1 | 選択 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 藤島法仁 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>家族や地域の現状をふまえた上で、地域における生活支援と地域共生社会の実現に向けた制度について理解を深める。本講義では、①生活の基本機能を理解できる、②家族の機能と役割を説明できる、③地域における生活支援について理解できる、④地域福祉について理解できる、⑤地域共生社会の実現に向けた取り組みについて説明できることを目標とする。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|--|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> 生活の基本機能を理解できる。 家族の機能と役割を説明できる。 地域における生活支援について理解できる。 地域福祉について理解できる。 地域共生社会の実現に向けた取組について説明できる。 | 定期試験 | 70% |
| コミュニケーション能力 | グループ内で議論し、地域共生社会について理解できる。 | グループディスカッション | 10% |
| 課題解決能力 | 地域福祉の課題についてレポートをまとめることができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 地域の生活支援における介護福祉士の役割について考えることができる。 | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <p>本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。</p> | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------|------------------------------|--|
| 1回目 | 生活の基本機能 | 社会関係と家庭機能について説明する。 | 予習：家族の機能と役割を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 2回目 | 家族の機能と役割 | 家族の形態と機能の変容について理解する。 | 予習：自助・互助・共助・公助について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 3回目 | 地域・地域社会 | 地域社会の変容と自助・互助・共助・公助について説明する。 | 予習：福祉ミックスについて調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 4回目 | 地域における生活支援 | 福祉ミックスについて説明する。 | 予習：地域福祉の発展を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 5回目 | 地域福祉の発展 | 地域福祉の考え方について説明する。 | 予習：地域共生社会について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 6回目 | 地域共生社会 | 地域共生社会が求められる背景と取組について説明する。 | 予習：地域包括ケアシステムについて調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 7回目 | 地域包括ケア | 地域包括ケアシステムについて理解する。 | 予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 8回目 | まとめ | | |
| 9回目 | 定期試験 | | |

| | |
|-----------|--|
| 科目（教職課程用） | |
|-----------|--|

| | |
|---------------------------|------------------|
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書『社会の理解』（中央法規） |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 水・木の5限目。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|---------------|--------|
| 講義科目名称：社会の理解Ⅱ | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 2年 | 2 | 選択 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 藤島法仁 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>社会保障制度、介護保険制度、障害者総合支援制度の創設された背景、目的、仕組み、専門職・組織の役割について学ぶ。本講義では、①社会保障制度が創設された背景と目的について理解できる、②社会保障制度の仕組みを説明できる、③介護保険制度が創設された背景と目的を説明できる、④介護保険制度の仕組み、専門職・組織の役割を理解できる、⑤障害者支援制度の目的、仕組み、専門職・組織の役割を理解できることを目標とする。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度が創設された背景と目的を理解できる。 ・ 社会保障制度の仕組みを説明できる。 ・ 介護保険制度が創設された背景と目的を説明できる。 ・ 介護保険制度の仕組み、専門職・組織の役割を理解できる。 ・ 障害者支援制度の目的、仕組み、専門職・組織の役割を理解できる。 | 定期試験 | 70% |
| コミュニケーション能力 | グループ内で議論し、介護保険制度について理解できる。 | グループディスカッション | 10% |
| 課題解決能力 | 介護保険制度の課題についてレポートをまとめることができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 介護保険制度における介護福祉士の役割について考えることができる。 | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------|-----------------------------|--|
| 1 回目 | 社会保障制度 | 社会保障制度の基本的な考え方（目的と機能）を説明する。 | 予習：社会保障制度の歴史的展開を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 2 回目 | 社会保障制度 | 社会保障制度の歴史的展開について説明する。 | 予習：社会保険の内容を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 3 回目 | 社会保障制度 | 社会保険の内容を理解する。 | 予習：生活保護について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 4 回目 | 社会保障制度 | 生活保護について理解する。 | 予習：社会保障制度の動向と課題を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 5 回目 | 社会保障制度 | 社会保障制度の動向と課題を理解する。 | 予習：高齢者保健福祉の動向を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 6 回目 | 高齢者保健福祉 | 高齢者保健福祉の動向について説明する。 | 予習：高齢者保健福祉の法体系を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 7 回目 | 高齢者保健福祉 | 高齢者保健福祉の法体系について説明する。 | 予習：介護保険制度の目的を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 8 回目 | 介護保険制度 | 介護保険制度創設の背景と目的を理解する。 | 予習：介護保険制度の仕組みを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |

| | | | |
|------|-----------|------------------------------|--|
| 9回目 | 介護保険制度 | 介護保険制度の仕組みについて理解する。 | 予習：介護保険制度における専門職・組織の役割を讀んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 10回目 | 介護保険制度 | 介護保険制度における専門職・組織の役割を理解する。 | 予習：障害者保健福祉の動向を讀んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 11回目 | 障害者保健福祉 | 障害者保健福祉の動向について説明する。 | 予習：障害者保健福祉の法体系を讀んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 12回目 | 障害者保健福祉 | 障害者保健福祉の法体系について説明する。 | 予習：障害者総合支援制度の目的を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 13回目 | 障害者総合支援制度 | 障害者総合支援制度創設の背景と目的を理解する。 | 予習：障害者総合支援制度における専門職・組織の役割を讀んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 14回目 | 障害者総合支援制度 | 障害者総合支援制度における専門職・組織の役割を理解する。 | 予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 15回目 | まとめ | 振り返りを行う。 | |
| 16回目 | 定期試験 | | |
| | | | |

| | |
|---------------------------|------------------|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書『社会の理解』（中央法規） |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 水・木の5限目。 |

| | |
|----------|--|
| 備考・メッセージ | |
|----------|--|

| | |
|---------------|--------|
| 講義科目名称：社会の理解Ⅲ | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 2年 | 1 | 選択 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 藤島法仁 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 介護の実践に関連する諸制度について理解を深める。本講義では、①個人の権利を守る制度を理解できる、②保健医療に関する制度を理解できる、③貧困対策・生活困窮者支援に関する制度を理解できる、④地域生活を支援する制度を理解できる、⑤市町村の行政計画を理解できることを目標とする。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人の権利を守る制度を理解できる。 ・保健医療に関する制度を理解できる。 ・貧困対策・生活困窮者支援に関する制度を理解できる。 ・地域生活を支援する制度を理解できる。 | 定期試験 | 70% |
| コミュニケーション能力 | グループ内で議論し、市町村の行政計画について理解できる。 | グループディスカッション | 10% |
| 課題解決能力 | これらの制度に関する課題についてレポートをまとめることができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 関連する制度について理解することの必要性を理解し積極的な学習ができる。 | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------------|------------------------|---|
| 1 回目 | 個人の権利を守る制度 | 虐待防止に関する制度について説明する。 | 予習：成年後見制度について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 2 回目 | 個人の権利を守る制度 | 成年後見制度について理解する。 | 予習：健康日本 21 について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 3 回目 | 保健医療に関する制度 | 健康日本 21、健康増進法について理解する。 | 予習：感染症について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 4 回目 | 保健医療に関する制度 | 感染症に関する法律について理解する。 | 予習：生活困窮者自立支援法について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 5 回目 | 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度 | 生活困窮者自立支援法について理解する。 | 予習：高齢者雇用安定法について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 6 回目 | 地域生活を支援する制度 | 就労支援・雇用促進に関する制度を理解する。 | 予習：バリアフリー新法について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 7 回目 | 地域生活を支援する制度 | 住生活を支援する制度を理解する。 | 予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。 |
| 8 回目 | まとめ | | |
| 9 回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|------------------|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書『社会の理解』（中央法規） |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 水・木の5限目。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|---------------|-------------|
| 講義科目名称：介護の基本A | 授業コード：21041 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 1年 | 4単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | <p>介護を必要とする人の支援を行うために必要な、生活・社会資源・リスクマネジメント・多職種連携について理解する。支援対象者の個別性を理解し自立支援に向けた基礎知識を身につける。</p> <p>①介護を受けて生活する人およびその生活について理解する</p> <p>②フォーマルおよび、インフォーマルな支援、地域連携について学びを深める</p> <p>③介護における安全の確保、リスクマネジメントとは何か、リスクを回避する方法について学ぶ</p> <p>④多職種が連携する必要性や多職種の役割を知る</p> |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|----------|------|
| 心豊かな人間力 | ・支援が必要な人の立場に立った視点を持ち、生活課題を知ることができる。 | ・レポート | 5% |
| 確かな専門的知識や技能 | <p>・生活とは何かを理解し、介護が必要な人の生活課題をみつけたし、その改善方法を考えることができる。</p> <p>・フォーマルサービス、インフォーマルサービスの違いを理解することができる</p> <p>・リスク回避の方法と、多職種連携の意義が理解できる。</p> | ・定期試験 | 70% |
| コミュニケーション能力 | ・学生自身の生活について基本的な理解を深め、その上で利用者個人の「生活ニーズ」、「その人らしさ」を大切にする介護のあり方について討議できる。 | ・グループワーク | 10% |
| 課題解決能力 | ・生活課題を見つけ出し、その改善方法について文章化することができる。 | ・レポート | 5% |

| | | | |
|---------|--------------|-----------|------|
| 主体的に学ぶ力 | ・積極的に学習ができる。 | ・授業への参加態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------|--|---------------------------|
| 1回目 | 介護を必要とする人の理解 | 私たちの生活の理解 生活とは何か | 予習：p 2～p 5 |
| 2回目 | 介護を必要とする人の理解 | 私たちの生活の理解 生活にとって大切な要素 生活の特性 | 復習：前回の授業 予習：p 3～p 9 |
| 3回目 | 介護を必要とする人の理解 | 私たちの生活の理解 配布資料をもとに、演習を行う グループワーク後に発表を行う。 | 復習：1回目・2回目授業を 復習しておくこと |
| 4回目 | 介護を必要とする人の理解 | 私たちの生活の理解 生活の特性 演習を通して生活の違いを理解する | 復習：p 2～p 8 予習：p 9～p 13 |
| 5回目 | 介護を必要とする人の理解 | 介護を必要とする高齢者の暮らし 事例を読み解く | 予習：p 15～p 22 |
| 6回目 | 介護を必要とする人の理解 | 介護を必要とする高齢者の暮らし 事例を読み解く グループワークを行う | 復習：前回の授業 予習：p 15～p 22 |
| 7回目 | 介護を必要とする人の理解 | 介護福祉を必要とする障害者の暮らし 事例を読み解く | 予習：p 23～p 31 |
| 8回目 | 介護を必要とする人の理解 | 介護福祉を必要とする障害者の暮らし 事例を読み解く グループワークを行う | 復習：前回の授業 予習：p 23～p 31 |
| 9回目 | 介護を必要とする人の理解 | 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解。その人らしさを考える。 | 予習：p 33～p 36 |
| 10回目 | 介護を必要とする人の理解 | 生活のしづらさの理解とその支援 演習：生活のしづらさを自分の事とし | 復習：前回授業 予習：p 37～p 45 |

| | | | |
|-------|-----------------------|---|--|
| | | て考える | |
| 11 回目 | 介護を必要とする人の理解 | 生活のしづらさの理解とその支援 生活のしづらさに対する支援 生活障害について考える | 復習： p 3 3～p 4 5 予習： 配布資料を読んでおくこと |
| 12 回目 | 介護を必要とする人の理解 | 生活のしづらさの理解とその支援 生活のしづらさに対する支援 前回授業のグループワーク、発表。 | 復習： p 3 3～p 4 5 予習： 配布資料を読んでおくこと |
| 13 回目 | 介護を必要とする人の理解 | 介護を必要とする人の理解について、 小テスト①の実施 | 復習： p 2～p 4 5 これまでの授業内容を復習しておくこと。 |
| 14 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 関連項目：社会の理解、第 3 章 3 節、 第 4 章 3 節、第 5 章 3 節を事前に読んでおく と理解がより深まる。 | 予習： p 4 8～p 6 0 |
| 15 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 関連項目：社会の理解、第 3 章 3 節、 第 4 章 3 節、第 5 章 3 節を事前に読んでおく と理解がより深まる。 | 予習： p 4 8～p 6 0 |
| 16 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 演習 2-1 をグループワーク発表 | 予習： p 4 8～p 6 0 |
| 17 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 生活を支えるフォーマルサービス 私的サービスとは 関連項目：社会の理解、第 3 章 3 節を 事前に読んでおく と理解がより深まる。 | 予習： p 6 1～p 6 7 |
| 18 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 地域連携 意義と目的、期間の理解。 | 予習： p 6 8～p 8 0 関連項目：社会の理解、第 2 章を事前に読んでおく と理解がより深まる。 |
| 19 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 地域連携 利用者を取り巻く地域連携の実際 | 復習： p 6 8～p 8 2 予習： p 8 0～p 8 2 |
| 20 回目 | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ | 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ について 小テスト②を行う | 復習： p 4 8～p 8 2 これまでの授業内容を復習しておくこと。 |

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 21 回目 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何か | 予習： p 8 4 ～ p 9 9 |
| 22 回目 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 介護における安全の確保 事故防止のための対策 | 予習： p 1 0 3 ～ p 1 1 3 |
| 23 回目 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 感染症対策 介護福祉職に必要な感染に関する知識を身につける | 予習： p 1 1 5 ～ p 1 3 6 |
| 24 回目 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 介護における安全の確保とリスクマネジメント について 小テスト③を行う | 復習： p 8 4 ～ p 1 3 6 これまでの授業内容を復習しておくこと。 |
| 25 回目 | 協働する多職種の機能と役割 | 多職種連携・協働の必要性 | 予習： p 1 4 0 ～ p 1 5 1 |
| 26 回目 | 協働する多職種の機能と役割 | 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 | 予習： p 1 5 2 ～ p 1 6 0 |
| 27 回目 | 協働する多職種の機能と役割 | 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 ホスピタリティー・コミュニケーション能力とは何か | 予習： p 1 6 1 ～ p 1 6 5 |
| 28 回目 | 協働する多職種の機能と役割 | 保険・医療・福祉職の役割と機能 | 予習： p 1 6 7 ～ p 1 8 0 |
| 29 回目 | 協働する多職種の機能と役割 | 他職種連携・協働の実際 | 復習： 配布資料の読み返し 予習： p 1 8 3 ～ p 1 9 8 |
| 30 回目 | 協働する多職種の機能と役割 | 協働する多職種の機能と役割について 小テスト④の実施 | 復習： p 1 4 0 ～ p 1 9 8 これまでの授業内容を復習しておくこと。 |
| | | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 4 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |

| | |
|----------|-------------------------------|
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問を受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。 |

| | |
|----------------|-------------|
| 講義科目名称：介護の基本 B | 授業コード：14031 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|------|-----|-----|--------|-------|
| 通年 | 1年 | 4単位 | 必修 | 講義・演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 尾村恵子 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 介護福祉の理念となる、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|--------------------|------|
| 心豊かな人間力 | ・自ら考え、課題に対して取り組むことができ、クラスメイトとも協力して解決することができる。 | 授業態度 課題への取り組み | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・「介護」の経緯を理解する ・様々な介護場面での介護福祉士の役割と機能を理解する ・介護福祉士の職業倫理を理解する ・自立支援の考え方を理解する | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | 利用者を中心とした多職種とのコミュニケーションの回り方を理解する | 授業への参加 | 10% |
| 課題解決能力 | 多職種の役割を理解し、課題に取り組み、解決することができる。 | 授業への参加 課題への取り組み | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 介護概念・基本理念・介護福祉士の倫理・自立支援の在り方を理解することができる | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |

| |
|------|
| 補足事項 |
| |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------------|---|------------------------------------|
| 1回目 | 介護福祉とは | 介護の成り立ち | 予習：テキスト P2～21 まで読む |
| 2回目 | 介護福祉とは | 介護の概念の変遷 | 復習：ノート見直し 予習：P23～45 まで読む |
| 3回目 | 介護福祉とは | 介護福祉の基本理念 | 復習：ノート見直し 予習：P47～56 まで読む |
| 4回目 | 介護福祉とは 演習① | ・尊厳を支える介護についてクラスメイトと考える（ディスカッション） ・利用者主体の自立を支えるために必要な自己決定権（ディスカッション） | 復習：ノート見直し 予習：演習 1-3.1-4 について考える |
| 5回目 | 介護福祉士の役割と機能 | ・介護福祉士の活躍の場と役割 | 復習：ノート見直し 予習：P60～75 まで読む |
| 6回目 | 介護福祉士の役割と機能 | ・介護福祉士の活躍の場と役割 | 復習：ノート見直し 予習：演習 2-1 について考える |
| 7回目 | 介護福祉士の役割と機能 | ・社会福祉士及び介護福祉士法 | 復習：ノート見直し 予習：P77～P85 まで読む |
| 8回目 | 介護福祉士の機能と役割 | 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 | 復習：ノート見直し 予習：P86～98 まで読む |
| 9回目 | 介護福祉士の機能と役割 | 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 | 復習：ノート見直し 予習：P99～107 |
| 11回目 | 介護福祉士の機能と役割 | 介護福祉士を支える団体 | 復習：ノート見直し 予習：P110～124 |
| 12回目 | 介護福祉士の倫理 | 介護福祉士の倫理 | 復習：ノート見直し 予習：P110～120 まで読む |
| 13回目 | 介護福祉士の倫理 | 介護福祉士の倫理 | 復習：ノート見直し 予習：P121～124 まで読む |
| 14回目 | 介護福祉士の倫理 | 日本介護福祉士会倫理綱領 | ・復習：ノート見直し ・予習：P125～P135 |
| 15回目 | 介護福祉士の倫理 演習② | ・利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践 | ・復習：ノート見直し ・予習：演習 3-1 |
| 16回目 | まとめ | まとめ・復習 | |
| 17回目 | 自立支援に向けた介護福祉のあり方 | 自立支援の考え方 | 予習：P138～145 まで読む |
| 18回目 | 自立支援に向けた介護福祉のあり方 | 自立支援の考え方 | 復習：ノート見直し 予習：ICF の考え方について |

| | | | |
|-------|----------------------|----------------|--|
| | | | て調べる |
| 19 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援の考え方 | 復習：ノート見直し 予習：資料参照 |
| 20 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | ICF の考え方 | 復習：ノート見直し 予習：P147～154 まで読む |
| 21 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援とリハビリテーション | 復習：ノート見直し 予習：P155～167 まで読む |
| 22 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援とリハビリテーション | 復習：ノート見直し 予習：P168～174 まで読む |
| 23 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援とリハビリテーション | 復習：ノート見直し 予習：演習 4-3、4-4 について 考えておく |
| 24 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援と介護予防 | 復習：ノート見直し 予習：P176～183 まで読む |
| 25 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援と介護予防 | 復習：ノート見直し 予習：P184～195 まで読む |
| 26 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援と介護予防 | 復習：ノート見直し 予習 P196～198 まで読む |
| 27 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援と介護予防 | 復習：ノート見直し 予習：テスト対策 |
| 28 回目 | 自立支援に向けた 介護福祉のあり方 | 自立支援と介護予防 | 復習：ノート見直し 予習：テスト対策 |
| 29 回目 | まとめ | 試験対策・まとめ | |
| 30 回目 | まとめ | 試験対策・まとめ | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」中央法規出版 必要に応じて資料配布 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 授業後、空きコマでの質疑応答行います。 |
| オフィスアワー | |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|---------------|-------------|
| 講義科目名称：介護の基本C | 授業コード：33142 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 2年 | 4単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美、川原ゆかり、尾村 恵子 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | <p>事例研究を参考に、パワーポイントを作成し研究報告の練習を行う。その過程において、自分自身の資料だけでなくクラスメイトの資料作成にも協力する、コミュニケーション能力・チームワーク能力の獲得を目指す。また、「介護の基本」で学んだことの知識を正確に身につけ、その知識の中から生活課題解決の提案ができ、資料を作成してプレゼンテーションすることができるようになる。</p> <p>①事例研究論集を例として用い、パワーポイントを作成しプレゼンテーションを行う。 介護の基本の基礎知識をもとに、生活支援における課題について考えることができる。</p> <p>②事例研究本論の作成においては、領域「社会の理解」と「こころとからだのしくみ」で学んだ知識と「介護の基本」「生活支援技術」を統合し、生活課題解決のための提案をすることができる。</p> <p>③介護従事者の心身の健康・労働環境について理解できる。</p> <p>④2年間で学修した「介護の基本」を記憶することを目指す。</p> |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|--|--------------|------------|
| 心豊かな人間力 | ・学生同士、協力してパワーポイント・レポート等を作成できる | パワーポイント・レポート | 5% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・「介護の基本」の知識を正確に身につけることができる。 ・「介護の基本」の知識を修得し、生活支援における根拠を示す事ができる。 | 定期試験 小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | ・教員の指導を素直に受け入れ、指導を受けたことを実践することができる。 | パワーポイント・レポート | 5% |
| 課題解決能力 | ・報告・連絡・相談を教員にすることができ、自身の課題を解決することができる。 | パワーポイント・レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・積極的に自らの課題に取り組み続け | ・授業への参加・態度 | 10% |

| | | | |
|------|----------|--|---------|
| | ることができる。 | | |
| | | | 合計 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------|---|--------------------------------|
| 1回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートの作成方法 構成方法 OP (パソコン) 室 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事。パワーポイントの予習 |
| 2回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートの作成方法 構成方法と参考文献 OP (パソコン) 室 参考文献を探す (図書館の利用方法) | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事。パワーポイントの予習 |
| 3回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成 参考文献を探す (図書館の利用方法) | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事。パワーポイントの予習 |
| 4回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成 OP (パソコン) 室 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事。パワーポイントの予習 |
| 5回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートを使用し、その内容を要約する。発表練習。 パワーポイントの作成 (完成) OP (パソコン) 室 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事。パワーポイントの予習 |
| 6回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートを使用し、その内容を要約する。発表練習。 パワーポイントの作成 (完成) OP (パソコン) 室 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事。パワーポイントの予習 |
| 7回目 | 生活支援の実践をまとめる | 事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの発表 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事 |

| | | | |
|------|---------------|--|---------------------------------|
| | | 教室 | |
| 8回目 | 生活支援の実践をまとめる | 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する 参考文献の利用方法（図書館） | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事 |
| 9回目 | 生活支援の実践をまとめる | 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する 参考文献の利用方法（図書館） | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事 |
| 10回目 | 生活支援の実践をまとめる | 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する。 パワーポイントの応用 OP（パソコン）室 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事 |
| 11回目 | 生活支援の実践をまとめる | 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する。 パワーポイントの応用 OP（パソコン）室 | 予習：事例研究発表会抄録を読んでおく事 |
| 12回目 | 生活支援における実践の検証 | 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する | 復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 |
| 13回目 | 生活支援における実践の検証 | 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する | 復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 |
| 14回目 | 生活支援における実践の検証 | 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する | 復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 |
| 15回目 | 介護従事者の安全 | 健康管理の意義と目的・こころの健康管理 教科書：介護の基本4 | 予習：p200～p229 |
| 16回目 | 介護従事者の安全 | 健康管理の意義と目的・こころの健康管理 教科書：介護の基本4 | 予習：p200～p229 |
| 17回目 | 介護従事者の安全 | 身体 of 健康管理・労働環境の整備 教科書：介護の基本4 | 予習：p231～p264 |
| 18回目 | 介護の基本 総まとめ | 介護福祉士を取り巻く状況 社会福祉士及び介護福祉士法 テキスト介護の基本I | 予習：p47～p59、 p77～p85 |
| 19回目 | 介護の基本 総まとめ | ICF（国際生活機能分類） リハビリテーション① テキスト介護の基本I | 予習：p147～p154 p155～p175 |

| | | | |
|-------|---------------|--|------------------------------------|
| 20 回目 | 介護の基本 総まとめ | リハビリテーション② リハビリテーション③ テキスト介護の基本 I | 予習： p 1 5 5～p 1 7 5 |
| 21 回目 | 介護の基本 総まとめ | 介護を必要とする人の理解 ケアマネジメント テキスト介護の基本 II | 予習： p 2～p 4 7 |
| 22 回目 | 介護の基本 総まとめ | 多職種連携①② テキスト介護の基本 II | 予習： p 1 4 0～p 1 8 2 |
| 23 回目 | 介護の基本 総まとめ | 総まとめテスト① | 復習： 18 回、19 回、20 回 授業 |
| 24 回目 | 介護の基本 総まとめ | 地域連携①② テキスト介護の基本 II | 復習： p 6 8～p 8 3 |
| 25 回目 | 介護の基本 総まとめ | 総まとめテスト② | 復習： 21 回、22 回授業 |
| 26 回目 | 介護の基本 総まとめ | 介護職の倫理 介護における安全の確保① テキスト介護の基本 I | 予習： p 1 1 0～p 1 3 7 p 8 4～1 1 4 |
| 27 回目 | 介護の基本 総まとめ | 総まとめテスト③ | 復習： 24 回授業 |
| 28 回目 | 介護の基本 総まとめ | 介護における安全の確保② 感染症対策 テキスト介護の基本 I | 予習： 8 4～1 3 9 |
| 29 回目 | 介護の基本 総まとめ | 総まとめテスト④ | 復習： 26、28 回授業 これ までの介護の基本の授業 |
| 30 回目 | 介護の基本 総まとめ | 介護職の安全①② テキスト介護の基本 I | 予習： p 2 0 0～p 2 6 4 |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 4 「介護の基本 II」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 各自、パワーポイント使用に慣れておくこと。（空きコマ・放課後等で、○ |

| | |
|----------|---|
| | P室・自分のPCを使用して操作になれること。) |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期はケースレポート例題をもとに、パワーポイントを使用してプレゼンテーション能力・チームワークを身につける演習をおこないます。 2. パワーポイントの使い方は各自、自学で身につけてください。前期の授業ではパワーポイントを使用できる力が必要です。 3. 後期は1年次に学習した内容の確認と補足が中心であり、配布資料中心の授業です。 |

| | |
|--------------------|-------------|
| 講義科目名称：コミュニケーション A | 授業コード：13131 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|--------------|-----|-----|--------|-------|
| 前期 | 1年生 | 1単位 | 必修 | 演習・講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 川原 ゆかり・尾村 恵子 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 利用者や家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を理解し、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|---------|------|
| 心豊かな人間力 | 演習を行いながら、クラスメイトと協力して課題に取り組み、親和的な態度でかかわることができる | 演習 | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | 利用者を中心とした多職種とのコミュニケーションの図り方を理解することができる | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | 傾聴・受容・共感の基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる | 演習・授業参加 | 10% |
| 課題解決能力 | ストレングス・エンパワメントの知識・技能を実践することができる | 演習 | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 周囲の助言や協力を得ながら課題を改善することができる | 演習・授業参加 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------------|-------------------|-------------|
| 1回目 | 介護におけるコミュニケーションの基本 | 介護におけるコミュニケーションとは | 予習：P2～5まで読む |

| | | | |
|---------------------------|---------------------|---|------------------------------|
| 2回目 | 介護におけるコミュニケーションの基本 | 介護におけるコミュニケーションの対象 | 復習：ノート見直し 予習：P6～9まで読む |
| 3回目 | 介護におけるコミュニケーションの基本 | 援助関係とコミュニケーション | 復習：ノート見直し 予習：P10～19まで読む |
| 4回目 | コミュニケーションの基本技術 | コミュニケーション態度に関する基本技術 | 復習：ノート見直し 予習：P20～32まで読む |
| 5回目 | コミュニケーションの基本技術 | 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 | 復習：ノート見直し 予習：P33～39まで読む |
| 6回目 | コミュニケーションの基本技術 | 目的別のコミュニケーション技術 | 復習：ノート見直し 予習：P40～55まで読む |
| 7回目 | コミュニケーションの基本技術 | 集団におけるコミュニケーション技術 | 復習：ノートの見直し 予習：P56～67まで読む |
| 8回目 | 対象者の特性に応じたコミュニケーション | コミュニケーション障害への対応の基本 | |
| 9回目 | 対象者の特性に応じたコミュニケーション | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 | |
| 10回目 | 家族とのコミュニケーション | 家族との関係づくり 家族への助言・連絡・相談の技術 家族関係と介護ストレスへの対応 | 復習：ノート見直し 予習：P162～185まで読む |
| 11回目 | 介護におけるチームのコミュニケーション | チームのコミュニケーションとは | 復習：ノート見直し 予習：P186～191まで読む |
| 12回目 | 介護におけるチームのコミュニケーション | 報告・連絡・相談の技術 | 復習：ノート見直し 予習：P192～200まで読む |
| 13回目 | 介護におけるチームのコミュニケーション | 記録の技術 会議・議事進行・説明の技術 | 復習：ノート見直し 予習：P201～228まで読む |
| 14回目 | 介護におけるチームのコミュニケーション | 事例検討に関する技術 情報の活用と管理のための技術 | 復習：ノート見直し 予習：P229～256まで読む |
| 15回目 | まとめ | 試験対策・まとめ | |
| 科目（教職課程用） | | | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | | | |

| | |
|----------|---|
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 中央法規 必要に応じて資料配布 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業終了後、空きコマでも質疑応答行います |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|--------------------|-------------|
| 講義科目名称：コミュニケーション B | 授業コード：42231 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|--------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 1単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 白似田 健悟 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>①「コミュニケーション A」で学習したコミュニケーションの基礎を応用する力を身につける。</p> <p>②障がいの程度や種別、生活状況に応じたコミュニケーションを学び、実践する。</p> <p>③日常生活の中で利用者の心のゆとりが得られるアクティビティを提供する技術の習得を目指す。</p> <p>④対象者のニーズに沿ったアクティビティの提供方法を自ら考える力を身につける。</p> <p>⑤対象者とその家族、関連職種とのコミュニケーション力を身につける。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|--|-------------------------|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | コミュニケーション対象者の特徴を理解する コミュニケーション障害とは何か、を理解する | 定期試験 | 40% |
| コミュニケーション能力 | 障がいのある方、その家族、関連職種とのコミュニケーション方法を理解する | 定期試験 | 20% |
| 課題解決能力 | 障害の程度や種別より適切にアセスメントを行い、実践し、評価する力を身につける 対象者のニーズに沿ったアクティビティの提供方法を考え、提供する力を身につける | レポート・振り返りシート 授業・演習態度 | 30% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | | | |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------------------------------|---|-------|
| 1回目 | コミュニケーションとは | “コミュニケーション”とは何か、を正しく理解し、説明することができる | |
| 2回目 | コミュニケーション障害の理解I | テキスト p 136～147 | |
| 3回目 | コミュニケーション障害の理解II | テキスト p 148～160 | |
| 4回目 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーションI | テキスト p 161～197 配布資料 音楽療法的レクリエーション | |
| 5回目 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーションII | テキスト p 161～197 配布資料 音楽療法的レクリエーション | |
| 6回目 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーションIII | テキスト p 161～197 配布資料 音楽療法的レクリエーション | |
| 7回目 | 介護におけるチームのコミュニケーションI | テキスト p 200～208 配布資料 価値・協力・集団 | |
| 8回目 | 描画療法と対人援助I | | |
| 9回目 | 描画療法と対人援助II | | |
| 10回目 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーションIV | テキスト p 161～197 配布資料 回想法的レクリエーション | |
| 11回目 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーションV | テキスト p 161～197 配布資料 回想法的レクリエーション | |
| 12回目 | 利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーションVI | テキスト p 161～197 配布資料 回想法的レクリエーション | |
| 13回目 | 介護におけるチームのコミュニケーションII | テキスト p 209～241 記録 | |
| 14回目 | 介護におけるチームのコミュニケーションIII | テキスト p 242～257 報告・連絡・相談・会議 | |
| 15回目 | 介護におけるチームのコミュニケーションIV | テキスト p 242～257 報告・連絡・相談・会議 | |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会 新・介護福祉士養成講座5『コミュニケーション技術』第3版中央法規出版 その他：適時配布 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | この科目は、レクリエーションインストラクター養成課程の関連科目でもあります |
| オフィスアワー | 授業の前後で質問などを受け付けます |
| 備考・メッセージ | 演習においては、課題に対する自発的、積極的な取り組みが前提となります |

| | |
|----------------|-------------|
| 講義科目名称：生活支援技術A | 授業コード：21031 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|-------|
| 通年 | 1年 | 4単位 | 必修 | 演習・講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 尾村 恵子 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点より、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ</p> <p>チームアプローチのあり方・室内環境のあり方・移動・移乗における具体的な介護技術を学ぶ。家事支援における介護技術を学ぶ。応急手当や緊急時対応の方法を学ぶ。災害時における生活支援について学ぶ。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---------------------------------------|-----------|------|
| 心豊かな人間力 | 自ら考え、適切に判断し継続して行動することができる。 | 演習・授業参加態度 | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | 生活支援技術の専門的知識と技能を実践することができる。 | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | かかわりを示すための基本動作、納得と同意を得る技法を実践することができる。 | 演習・授業参加態度 | 10% |
| 課題解決能力 | 指導したことを実践し、その結果を報告しながら疑問点を相談することができる。 | 演習・授業参加態度 | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 尊厳を支える介護とはどのような介護か考えることができる。 | 演習・授業参加態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-------------|---|------------------------------|
| 1回目 | 生活支援の基本的考え方 | 生活支援について理解する。 生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解する。 | 予習：テキスト p 2～p 11 |
| 2回目 | 生活支援と介護過程 | ICFの視点を持ち、利用者の全体像、個別性を知る。 根拠ある生活支援技術を学ぶ。 | 予習：p 12～p 21 |
| 3回目 | 居住環境の整備 | 住まいの役割と生活空間を学ぶ | P 32～P 45 |
| 4回目 | 居住環境の整備 | 加齢の影響と、安全な生活環境を学ぶ | P 38～P 63 |
| 5回目 | 居住環境の整備 | 快適な室内空間について学ぶ | P 46～P 54 |
| 6回目 | 居住環境の整備 | 事例をもとに、利用者の生活環境を再整備する | 居住環境の整備で学んだことを復習しておくこと |
| 7回目 | 休息・睡眠の介護 | ベットメイキングの方法について学ぶ（演習） | 予習：P 227～232、 P 236～240 |
| 8回目 | 休息・睡眠の介護 | ベットメイキングの方法について学ぶ（演習） | 予習：P 227～232、 P 236～240 |
| 9回目 | 休息・睡眠の介護 | ベットメイキングの方法について学ぶ（演習） | 予習：P 227～232、 P 236～240 |
| 10回目 | 休息・睡眠の介護 | ベットメイキングの方法について学ぶ（演習） | 予習：P 227～232、 P 236～240 |
| 11回目 | 休息・睡眠の介護 | ベットメイキング 実技試験 （実習室） | 復習：これまでのベットメイキング授業 |
| 12回目 | 休息・睡眠の介護 | ベットメイキング 実技試験 （実習室） | 復習：ベットメイキング授業 |
| 13回目 | 移動の介護 | 移動の意義と目的、移動の介護をするためにすべきことを理解する | 予習：p 82～96、p 120～123 |
| 14回目 | 移動の介護 | 仰臥位から端坐位まで（演習） 立位・寝返り・起き上がりの基本動作 | 予習：p 97～p 115 |
| 15回目 | 移動の介護 | 仰臥位から端坐位まで（演習） 立位・寝返り・起き上がりの基本動作 | 予習：p 97～p 115 |
| 16回目 | 移動の介護 | 仰臥位から端坐位まで（演習） 立位・寝返り・起き上がりの基本動作 | 予習：p 97～p 115 |
| 17回目 | 移動の介護 | 端坐位～立位～車いす移乗 車いすの正しい姿勢・使い方 | 予習：136～p 146、 p 133～p 135 |

| | | | |
|-------|--------|----------------------------------|--|
| 18 回目 | 移動の介護 | 端坐位～立位～歩行 歩行の介助 杖歩行 | 予習：p 177～p 182 |
| 19 回目 | 移動の介護 | 移動・移乗における介護技術 実技試験 | 復習：移動の介護の授業 |
| 20 回目 | 食事の介護 | 食事の意義と目的 | 予習：p 74～84 |
| 21 回目 | 食事の介護 | 食事の意義と目的 | 予習：p 74～84 |
| 22 回目 | 食事の介護 | 食卓の食事介助、車椅子での食事の介助（演習） | 予習：p 84 |
| 23 回目 | 食事の介護 | ベット上での食事の介助（演習） | 予習：p 88 |
| 24 回目 | 食事の介護 | 食事の介護 実技試験 | 復習：食事の介護の授業 |
| 25 回目 | 身支度の介護 | 口腔ケアの意義・目的 | 予習：p 28～p 46 |
| 26 回目 | 身支度の介護 | ベット上での歯磨き（演習） | 予習：p 43 |
| 27 回目 | 身支度の介護 | 着脱衣の意義目的 | 予習：p 47 |
| 28 回目 | 身支度の介護 | 上着の着脱（前開き・かぶり上着、ズボン）（演習） | 予習：p 51～p 58 |
| 29 回目 | 身支度の介護 | ベット上での衣服着脱（上・下） | 予習：p 59 |
| 30 回目 | 身支度の介護 | 身じたくの介護 実技試験 | 復習：身支度の介護の授業 |
| 31 回目 | 入浴の介護 | 自立した入浴・清潔保持とは | 予習：教科書 p 104～107 |
| 32 回目 | 入浴の介護 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 | 予習：p 108～116、 123、124、132、 144～146 |
| 33 回目 | 入浴の介護 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 皮膚のしくみ | 参考：こころとからだの仕組み p 174～p 180 |
| 34 回目 | 入浴の介護 | 入浴・清潔保持におけるアセスメント （学園祭のことを話す） | |
| 35 回目 | 入浴の介護 | 入浴介助の方法：手浴 手浴 学園祭準備 | 予習：p 134～136 |
| 36 回目 | 入浴の介護 | 入浴介助の方法：座位での足浴 | |

| | | | |
|-------|----------|--|---------------------------|
| | | 手浴 学園祭準備 | |
| 37 回目 | 入浴の介護 | 手浴 学園祭準備 | |
| 38 回目 | 入浴の介護 | 手浴 学園祭準備 | |
| 39 回目 | 入浴の介護 | 入浴介助の方法：個浴での介助方法 | 予習：p 111～116 |
| 40 回目 | 入浴の介護 | 入浴介助の方法：個浴での介助方法 | 予習：p 111～116 |
| 41 回目 | 入浴の介護 | 実技テスト | |
| 42 回目 | 入浴の介護 | 実技テスト | |
| 43 回目 | 排泄の介護 | 自立した排泄とは | 予習：p 158～161 |
| 44 回目 | 排泄の介護 | 排泄における介護技術 | 予習：p 162～164 |
| 45 回目 | 排泄の介護 | 尿と便のしくみ 参考：こころとからだ p 210～216、p 224～226 | 予習：p 194～196 |
| 46 回目 | 排泄の介護 | 排便障害 参考：こころとからだ p 227～230 小テスト①（まとめ） | 予習：p 196～201 |
| 47 回目 | 排泄の介護 | ポータブルトイレ（演習） | 予習：p 170～174 |
| 48 回目 | 排泄の介護 | ポータブルトイレ（演習） | 予習：p 170～174 |
| 49 回目 | 排泄の介護 | 尿器（演習） 排泄演習：採尿器、陰部洗浄、 | 予習：p 178～181 p 132～134 |
| 50 回目 | 排泄の介護 | 差し込み便器（演習） | p 182～186 |
| 51 回目 | 排泄の介護 | おむつの介護（演習） 紙おむつ | |
| 52 回目 | 排泄の介護 | おむつの介護（演習） 紙おむつ | |
| 53 回目 | 排泄の介護 | 実技テスト | |
| 54 回目 | 排泄の介護 | 実技テスト | |
| 55 回目 | 睡眠の介護 | 睡眠障害と他職種連携 | 予習：p 242～247 |
| 56 回目 | 小テスト② | 生活支援技術の基礎知識の見直し | 復習：これまでの授業内容 |
| 57 回目 | 生活支援技術総括 | 実習に向け、生活支援技術の再検証（演習） | 復習：これまでの演習内容 |
| 58 回目 | 小テスト③ | 生活支援技術の基礎知識の見直し | 復習：これまでの授業内容 |
| 59 回目 | 生活支援技術総括 | 実習に向け、生活支援技術の再検証 | 復習：これまでの演習内容 |

| | | | |
|-------|-------|----------------|--------------|
| | | (演習) | |
| 60 回目 | 小テスト④ | 生活支援技術の基礎知識見直し | 復習：これまでの授業内容 |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目 (教職課程用) | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 実習室での演習には、教室での講義を復習して臨んでください。 演習は「考える⇒実践する⇒考える」この繰り返しをより多く実践した学生が上達します。 演習は、ドレスコード (エプロン・ジャージ・室内履き等) を守る事。 |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 実習室での演習後、各自、実習室にて実技演習を自習してください。実習室のカギは、研究室にて貸し出します。 |

| | |
|-----------------|--------|
| 講義科目名称：生活支援技術 B | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 1年 | 2単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 木村 貞子 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 家庭生活、被服、住生活について利用者が自立に向けた家事の介助、多職種との連携を援助の視点から、実習を中心とした学習を行う。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|---|--------------------------|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | ・家庭の機能、住居の機能を理解し、 知識を身につける。 ・被服の機能を理解し、製作を通して 支援技術の技能を習得する | ・定期試験 ・作品の提出 | 40% 40% |
| コミュニケーション能力 | ・在学においてグループ内で討議し、 利用者に対する家事援助能力を高める | ・グループディスカッション ・レポート提出 | 5% |
| 課題解決能力 | ・基礎技術を身に着け、作品を完成させる。 | ・作品の提出 | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・作品を完成させることで知識と技術 を身につけ介護師としての資質が 高まることを学ぶ | ・授業態度 | 5% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では定期試験 40% 作品の提出 40% 授業への参加、作品の完成度 20% の割合で評価する。 ・レポートは紙媒体で提出する | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------|-------------|-------|
| 1回目 | 家庭管理 | 洗濯・漂白・洗剤 | |
| 2回目 | 家庭管理 | しみ抜き・仕上げ・保管 | |

| | | | |
|------|------------------|-------------------------------|-----------------|
| 3回目 | 家庭管理 | 衣類、寝具の衛生管理 | |
| 4回目 | 住生活 | 快適な室内環境、環境整備、そうじ、ごみすて | |
| 5回目 | 裁縫 | 糸と針の関係（ミシン・手縫い） | |
| 6回目 | 裁縫 | あづま袋製作（並み縫い、玉結び、玉止め） | てぬぐいの準備 |
| 7回目 | 裁縫 | 袋物製作（刺し子）裁断 | 布、刺し子用糸、裁縫用具の準備 |
| 8回目 | 裁縫 | 袋物製作 刺し子 | 布、刺し子用糸、裁縫用具の準備 |
| 9回目 | 裁縫 | 袋物製作 ミシン（三つ折り縫い・ひもつけ）、手縫（まつり） | ミシンの準備 |
| 10回目 | 裁縫 | 袋物製作 仕上げ | ミシンの準備 |
| 11回目 | 裁縫 | クッション製作（ミシン直線縫い） | ミシンの準備 |
| 12回目 | 家庭経営 | 家庭経済・収入と支出、リスク管理 | |
| 13回目 | 家計の管理 | 消費者問題 契約トラブルと対策 消費者信用 | クーリング・オフの復習 |
| 14回目 | 家事の介護における多職種との連携 | 在宅の場合 | 教科書該当箇所の予習 |
| 15回目 | 家事の介護における多職種との連携 | 施設の場合 | 教科書該当箇所の予習 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | テキスト最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | |
| 備考・メッセージ | 実習の際は製作進度が順調にいくよう材料や道具を忘れないこと |

| | |
|----------------|-------------|
| 講義科目名称：生活支援技術C | 授業コード：41031 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|--------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 2年 | 2単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 白似田 健悟 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 多種多様な障害のある利用者に対して、様々な手法の生活援助技術を用いて、安全に援助できる知識・技術を習得できる |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-----------------|---|------------------------|------------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | 内部障害・精神障害の理解と生活支援 について理解できる 視覚・聴覚・言語障害等の理解と生活 支援について理解できる 知的・発達障害、高次脳機能障害等の 理解と生活支援について理解できる | 定期試験 レポート 課題への取組 | 40% 5% 10% |
| コミュニケーション能力 | | | |
| 課題解決能力 | 障害に応じた生活支援技術とは何か、 について説明できる 終末期について考え、その生活支援に ついて理解できる | 定期試験 レポート 課題への取組 | 30% 5% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | | | |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------------|--|-------|
| 1回目 | 心臓機能障害に応じた生活支援技術 | 心臓機能障害のある人の理解と生活支援 介護技術の展開と他職種との連携・協働 | |
| 2回目 | 心臓機能障害に応じた生活支援技術 | 心臓機能障害のある人の理解と生活支援 介護技術の展開と他職種との連携・協働 | |

| | | | |
|------|---------------------------------------|---|--|
| 3回目 | 腎臓機能障害に応じた介護 | 腎臓機能障害のある人の理解と生活支援、 介護技術 | |
| 4回目 | 呼吸機能障害に応じた介護 | 呼吸機能障害のある人の理解と支援方法 介護技術の展開と他職種との連携・協働 | |
| 5回目 | 呼吸機能障害に応じた介護 | 呼吸機能障害のある人の理解と支援方法 介護技術の展開と他職種との連携・協働 | |
| 6回目 | 膀胱・直腸機能障害に応じた介護 | 膀胱・直腸機能障害の特性と支援方法及び 留意点 | |
| 7回目 | 肝臓機能障害に応じた介護 | 肝臓機能障害の特性と、その支援方法及び 留意点 | |
| 8回目 | 精神障害に応じた生活支援技術 | 精神障害者の特性や生活の理解、生活支援 方法 | |
| 9回目 | 精神障害者に対する介護技術 の展開と他職種との協働と連携 | | |
| 10回目 | 障害をもつ利用者の状態、状況 に応じた生活支援技術とは | 社会福祉士及び介護福祉士の定義の変遷 と利用者のニーズについて | |
| 11回目 | 視覚障害に応じた介護 | 視覚障害のある人の生活の理解および支 援と環境整備 | |
| 12回目 | 視覚障害者に対する介護技術 の展開と他職種の役割と協働・ 連携 | 社会資源の利用・視覚障害のある人の生活 (演習) | |
| 13回目 | 聴覚障害に応じた介護 | 聞こえの障害・聴力検査・補聴器について | |
| 14回目 | 聴覚障害者に対するコミュニ ケーションと支援 | | |
| 15回目 | 言語障害とは | 言語障害のある人の特徴および配慮 | |
| 16回目 | 聴覚障害および言語障害のある 人の生活 | | |
| 17回目 | 重複障害（盲ろう）に応じた介護 | 盲ろう者と生活の理解および介護技術の 展開 他職種との役割と協働、連携（演習） | |
| 18回目 | 運動機能障害に応じた介護 | 運動機能障害と道常生活動作（ADL） | |
| 19回目 | 運動機能障害のある人の生活 支援（1） | 運動器疾患による障害と支援 | |
| 20回目 | 運動機能障害のある人の生活 支援（2） | 神経・筋疾患による障害と支援（演習） | |
| 21回目 | 知的障害に応じた介護 | 知的障害のある人と生活の理解・心理的理 解・医学的理解 | |

| | | | |
|-------|---|--|--|
| | | 他職種の役割と協働・連携 | |
| 22 回目 | 知的障害のある人に関わる上での留意点 | 知的障害者の地域生活における課題および演習 | |
| 23 回目 | 障害者に関する法律と相談支援事業 | | |
| 24 回目 | 高次脳機能障害に応じた介護 | 高次脳機能障害のある人と生活の理解 | |
| 25 回目 | 高次脳機能障害のある人の残存能力の拡大およびネットワークづくりと介護技術の展開(演習) | | |
| 26 回目 | 発達障害に応じた介護 | 発達障害の特性と個別支援計画および介護技術の展開 | |
| 27 回目 | 発達障害のある人に対する他職種の役割と協働、連携 | | |
| 28 回目 | 重症心身障害に応じた介護 | 重症心身障害のある人の生活の理解と支援 介護技術の展開および連携と協働(演習) | |
| 29 回目 | 終末期の介護 | 終末期ケアの意味と理念 | |
| 30 回目 | 終末期における介護技術 | 終末期の介護における他職種の役割と協働、連携 | |
| 31 回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目(教職課程用) | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | テキスト：新介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅱ』第3版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 新介護福祉士養成講座8『生活支援技術Ⅲ』第3版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業の前後で質問などを受け付けます |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|----------------|-------------|
| 講義科目名称：生活支援技術D | 授業コード：34041 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|-------|
| 通年 | 2年 | 2単位 | 必修 | 演習・講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美、尾村 恵子 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | <p>①利用者の生活歴や個別性を踏まえ、アセスメントからレクリエーション援助を提案できる技術を習得する。②1年次に学んだ、移動・移乗、身じたく、食事、入浴、排泄、睡眠等の生活支援技術を復習し、根拠のある生活支援技術の基本を身につける。③介護実習を通して学んだ知識、技術をもとに、利用者のアセスメントに即した生活支援技術の演習をグループで話し合いながらとりくむことができる。その中から技術の実践力、応用力を身につける。</p> |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | 演習の実践において、自らの課題に取り組みながらクラスメイトの課題にも共に向き合いチームで行動することができる。 | 演習 | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・生活支援技術の専門的知識と技術の根拠を理解して、実践することができる。 | 定期試験/実技試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | ・利用者の特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。 | 演習 | 10% |
| 課題解決能力 | ・ストレングス・エンパワメントの知識・技能を生活支援の場面で効果的に活用することができる | 演習 | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・自らの生活支援技術の課題を見つけ、その改善に取り組むことができる | 演習、授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

| |
|--|
| |
|--|

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------------|---|--------------------------------|
| 1回目 | レクリエーション 援助 | レクリエーションの意義・目的 レクリエーションインストラクターとは | 予習：レクリエーションインストラクターについて調べておくこと |
| 2回目 | レクリエーション 援助 | ライフスタイルとレクリエーション | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 3回目 | レクリエーション 援助 | 3つの基本的支援の具体例 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 4回目 | レクリエーション 援助 | 計画立案方法 個々人のアセスメントに基づいたプログラム計画 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 5回目 | レクリエーション 援助 | 計画立案方法 班分け・計画立案 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 6回目 | 生活支援技術の復習 | 移動・移乗の介護 テキスト6「生活支援技術Ⅰ」 | 復習：p 82～p 186 |
| 7回目 | 生活支援技術の復習 | 移動・移乗の介護 テキスト6「生活支援技術Ⅰ」 | 復習：p 82～p 186 |
| 8回目 | レクリエーション 援助 | 計画立案方法 班別・計画立案 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 9回目 | レクリエーション 援助 | レクリエーション作成 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 10回目 | レクリエーション 援助 | レクリエーション作成 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 11回目 | レクリエーション 援助 | レクリエーション発表 レクリエーション実技試験 | 復習：配布資料 予習：配布資料 |
| 12回目 | 長期実習における 生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り、文献などを用いて事例研究を作成する | 復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 |
| 13回目 | 長期実習における 生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り、文献などを用いて事例研究を作成する | 復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 |
| 14回目 | 長期実習における | 長期実習での生活支援技術の振り返り | 復習：長期実習中の生活支 |

| | | | |
|-------|----------------|---|------------------------------------|
| | 生活支援技術 | 生活支援技術の実践を振り返り、文献などを用いて事例研究を作成する | 援技術 予習：テキスト・文献等 |
| 15 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り、文献などを用いて事例研究を作成する | 復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 |
| 16 回目 | レクリエーションの実践 | 地域の人々へのレクリエーションの提供 ※インストラクター登録 | 復習：アロマセラピーについて |
| 17 回目 | レクリエーションの実践 | 地域の人々へのレクリエーションの提供 | 復習：アロマセラピーについて |
| 18 回目 | レクリエーションの実践 | 地域の人々へのレクリエーションの提供 | 復習：アロマセラピーについて |
| 19 回目 | レクリエーションの実践 | 地域の人々へのレクリエーションの提供 | 復習：アロマセラピーについて |
| 20 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 個人・グループワーク | 予習：長期実習中の生活支援技術 |
| 21 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 個人・グループワークの発表 | 予習：長期実習中の生活支援技術 |
| 22 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（移動） | 予習：長期実習中の生活支援技術 |
| 23 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（移乗） | 予習：長期実習中の生活支援技術 |
| 24 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（身支度） | 復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について |
| 25 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（入浴） | 復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について |
| 26 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（排泄） | 復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について |
| 27 回目 | 長期実習における生活支援技術 | 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（睡眠） | 復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について |
| 28 回目 | 生活支援技術実技 | 生活支援技術実技試験 練習 | 復習：生活支援技術全般に |

| | | | |
|-------|------------|---------------|------------------------------------|
| | 試験 | | ついて 予習：生活支援技術全般について |
| 29 回目 | 生活支援技術実技試験 | 生活支援技術実技試験 練習 | 復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について |
| 30 回目 | 生活支援技術実技試験 | 国試過去問実技試験 | 復習：生活支援技術全般について 予習：国試実技試験過去問 |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 参考：介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 日本レクリエーション協会 「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 演習では、1年生時に学んだ、生活支援技術Aの授業・演習内容をしっかり復習して授業に臨んでください。演習は「考えて⇒実践して⇒考える」この繰り返しを実践した学生が上達します。各自、空きコマを利用して、実習室での実技練習に取り組んでください。 |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。 |

| | |
|---------------|-------------|
| 講義科目名称：介護過程 I | 授業コード：32141 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 1単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | <p>介護過程の意義・目的を学び、生活支援における介護過程の必要性を理解する。介護過程の展開の方法を学び、アセスメント（ICF）の方法について理解を深める。</p> <p>①介護過程の意義・目的を理解することができる。</p> <p>②介護過程とICFの関係を理解することができる。</p> <p>③生活支援における介護過程の必要性を理解出来る。</p> <p>④介護過程の展開について理解できる。</p> <p>⑤ICFモデルを活用したアセスメントを理解できる。</p> |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|--|-----------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開が、介護が必要な人の生活の継続性のために必要であることを理解出来る。 ・ICFモデルを活用した情報収集について理解できる。 | 定期試験 | 70% |
| コミュニケーション能力 | 丁寧な字で、介護過程資料を書くことができる。 | レポート | 10% |
| 課題解決能力 | ・ニーズ、生活課題についてICFモデルを活用しながら、情報を収集することができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 介護過程を実践していく上での、生活課題を理解し、積極的に演習をすることができる。 | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

| |
|--|
| |
|--|

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1回目 | 介護過程とは | 介護過程の展開と基本的視点 | 予習：テキスト p 2～6 |
| 2回目 | 介護過程とは | 介護過程の全体像 | 復習：テキスト p 2～6 予習：テキスト p 6～9 |
| 3回目 | 生活支援の考え方 と介護過程の必要性① | 生活支援における介護過程の意義と事例検討 | 復習：テキスト p 6～9 予習：p 12～p 15 |
| 4回目 | 生活支援の考え方 と介護過程の必要性② | 生活支援における介護過程の意義と事例検討 | 復習：p 12～p 15 予習：p 16～p 17 |
| 5回目 | 介護過程の理解 | アセスメントとは | 予習：p 20～p 21 |
| 6回目 | 介護過程の理解 | 介護過程の展開 | 復習：p 20～p 21 予習：p 22～p 24 |
| 7回目 | 介護過程の理解 | アセスメント | 復習：p 22～p 24 予習：p 25～p 27 |
| 8回目 | 介護過程の理解 | 介護過程の展開の8つの視点① | 復習：p 25～p 27 |
| 9回目 | 介護過程の理解 | 介護過程の展開の8つの視点② | 復習：第8回授業内容 |
| 10回目 | 介護過程の理解 | アセスメント事例演習 (場面1・場面2) | 復習：5回～9回授業 |
| 11回目 | 介護過程の理解 | アセスメントの方法 知識・方法・観察の視点(図・表) | 予習：p 27～p 28 |
| 12回目 | 介護過程の理解 | アセスメント ICFモデル | 予習：p 29～p 33 |
| 13回目 | 介護過程の理解 | アセスメント ICFモデル① 方法・留意点 | 復習：p 29～p 33 |
| 14回目 | 介護過程の理解 | アセスメント ICFモデル② 方法・留意点 | 復習：p 29～p 33 |
| 15回目 | 介護過程の理解 | アセスメント ICFモデル③ 基礎例題・演習 | 復習：これまでの授業 |

| | |
|-----------|--|
| 科目(教職課程用) | |
|-----------|--|

| | |
|---------------------------|---|
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 介護過程は、他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を、実際の利用者の支援に向けてどのようにいかしていくかを考える科目です。次回の授業範囲（テキスト）をよく読み、その内容の理解を深めるように努力してください。そうすることで、授業の理解を深めることができます。 |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問を受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。 |

| | |
|--------------|-------------|
| 講義科目名称：介護過程Ⅱ | 授業コード：31241 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 1単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>生活支援技術やコミュニケーション技術の活用と共にアセスメント（１）ICF、（２）の概念を理解する。1事例をもとに、アセスメント（１）ICF、（２）のマニュアルを作成する。</p> <p>①アセスメント（１）ICFを活用し情報収集を行いながら、個別の生活課題や潜在能力について考えることができる。</p> <p>②アセスメント（２）の目的・情報収集の方法を理解できる。</p> <p>③アセスメント（２）における、情報の解釈・関連付け・統合化を理解できる。</p> <p>④アセスメント（２）において、生活課題を明確化し、優先順位を付けることができる。</p> <p>⑤事例を用いたマニュアルの整備と活用ができる。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|------|------|
| 心豊かな人間力 | ・アセスメント（１）（２）を通して、目標達成のために計画を立てることができる。 | レポート | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・アセスメント（１）（２）の作成において、3領域（社会・介護・こころとからだ）の知識を活かすことができる。 ・生活課題の解決にむけて、優先順位の付け方を学ぶ事ができる。 | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | アセスメント（１）（２）の作成において、多職種と連携した支援を予想しながら、生活課題の解決を考えることができる。 | レポート | 10% |
| 課題解決能力 | ・アセスメント（１）（２）の作成において、情報から生活課題を推測することができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・生活課題の解決において、尊厳を支える介護を考えることができる。 | レポート | 10% |

| | |
|------|------|
| 合計 | 100% |
| 補足事項 | |
| | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------|--|------------------------------|
| 1回目 | 介護過程の理解 | ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習① | 予習：テキスト p 30～p 33 |
| 2回目 | 介護過程の理解 | ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習② | 復習：前回授業 |
| 3回目 | 介護過程の理解 | ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習③ | 復習：前回授業 |
| 4回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解① 情報の解釈・関連付け・統合化 | 復習：前回までの授業 予習：p 36～p 38 |
| 5回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解② 情報の解釈・関連付け・統合化 | 復習：前回までの授業 予習：p 36～p 38 |
| 6回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解③ アセスメントの3つの視点 | 復習：前回までの授業 予習：p 36～p 38 |
| 7回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解④ Bさん事例演習 p 45表2-5を用い、生活像からイメージを描く | 復習：p 22～p 24 予習：p 25～p 27 |
| 8回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解⑤ p 46表2-6、生活像の関連付けから、情報の関連付け・解釈・統合化を行う | 復習：前回の授業 予習 p 47～p 50 |
| 9回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解⑥ p 46表2-6、生活像の関連付けから、情報の関連付け・解釈・統合化を行う | 復習：前回の授業 予習 p 47～p 50 |
| 10回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解⑦ Bさん事例演習 生活課題の明確化 | 復習：前回授業 予習 p 50～p 55 |
| 11回目 | 介護過程の理解 | アセスメント（2）の理解⑧ | 復習：前回授業 |

| | | | |
|-------|---------|---|--|
| | | Bさん事例演習 生活課題の明確化 | 予習 p 5 0 ~ p 5 5 |
| 12 回目 | 介護過程の理解 | アセスメント (2) の理解⑨ Bさん事例演習 生活課題の優先順位 | 復習：前回授業 予習：p 6 1 ~ p 6 4 |
| 13 回目 | 介護過程の理解 | アセスメント (1) (2) 見本作成 Bさん事例を元に、マニュアル作成 | 復習：Bさん事例 |
| 14 回目 | 介護過程の理解 | アセスメントマニュアル製本 情報収集コード集の作成 | 復習：これまでの授業 |
| 15 回目 | 介護過程の理解 | 介護計画の立案① 個別援助計画とは Bさん事例にて優先順位の設定 | 復習：テキスト p 3 3 ~ p 5 5 予習：p 5 9 ~ p 6 4 |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目 (教職課程用) | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 介護過程の展開において、アセスメント (2) は非常に重要です。授業の理解を深めるために、次の授業の予習 (テキストを読む) を行ってください。そうすることで授業の理解が深まります。 |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。 |

| | |
|--------------|-------------|
| 講義科目名称：介護過程Ⅲ | 授業コード：12141 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-------|-----|--------|------|
| 後期～前期 | 1年～2年 | 2単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | <p>アセスメント（１）、（２）を作成し、個別援助計画を立案することができる。評価（モニタリング）の意義と目的を理解し、計画の継続・修正をすることができる。事例演習に取り組み、学内の授業や介護実習を通して学んだ知識や技術を統合することができる。</p> <p>①介護過程Ⅱで作成した、事例マニュアルを参考に、他事例の介護過程の展開が出来る。</p> <p>②アセスメント（１）において、個別の生活課題、潜在能力を見極めることができる。</p> <p>③アセスメント（２）を作成できる。</p> <p>④アセスメント（１）（２）から、個別援助計画を立案できる。</p> <p>⑤評価（モニタリング）について理解できる。</p> <p>⑥自立支援に沿った個別援助計画の立案・実施・評価・他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。</p> <p>⑦3領域「こころとからだのしくみ」「社会の理解」「介護」の分野から学んだことを介護過程の展開に活かすことができる。</p> |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|------|------|
| 心豊かな人間力 | ・個別性を理解し、本人の望む生活を第一に、個別援助計画を立案することができる。 | レポート | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・アセスメント（１）（２）によって、その人の思いを推測し、生活課題を導き出すことができる。 ・3領域の知識を活かし、根拠を示しながら個別援助計画を立案することができる。 | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | ・利用者の特性に応じた個別援助計画の立案をすることができる。 | レポート | 10% |
| 課題解決能力 | ・ストレングス・エンパワメントの知識、技能を効果的に活用し介護過程の | レポート | 10% |

| | | | |
|---------|----------------------|------|------|
| | 展開ができる。 | | |
| 主体的に学ぶ力 | 課題の改善について評価することができる。 | レポート | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1回目 | 介護過程の理解 | 介護計画の立案② Bさん事例にて支援内容・支援方法の決定 | 復習：前回授業 予習：p 65～p 67 |
| 2回目 | 介護過程の理解 | 事例1 Aさん演習 アセスメント（1） | 復習：Bさん事例 予習：p 86～p 91 |
| 3回目 | 介護過程の理解 | 事例1 Aさん演習 アセスメント（1） | 復習：p 33～p 55 予習：p 86～p 91 |
| 4回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Aさん演習 アセスメント（2） | 復習：p 86～p 91 予習：p 92～p 93 |
| 5回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Aさん演習 アセスメント（2） | 復習：p 92～p 93 予習：p 92～p 93 |
| 6回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Aさん演習 個別援助計画 | 復習：p 86～p 93 予習：p 94～p 95 |
| 7回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 アセスメント（1） | 復習：Bさん・Aさん事例 予習：p 99～p 104 |
| 8回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 アセスメント（1） | 復習：p 99～p 104 予習：p 99～p 104 |
| 9回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 アセスメント（2） | 復習：p 99～p 104 予習：p 105～p 106 |
| 10回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 アセスメント（2） | 復習：p 99～p 104 予習：p 105～p 106 |
| 11回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 個別援助計画 | 復習：p 99～p 106 予習：p 107～p 108 |
| 12回目 | 介護過程の実践的 | 事例3 Hさん演習 | 復習：Bさん・Aさん事例 |

| | | | |
|------|------------|--------------------------------------|--|
| | 展開 | アセスメント（１） | 予習：p 112～p 116 |
| 13回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例3 Hさん演習 アセスメント（１） | 復習：p 112～p 116 予習：p 117～p 118 |
| 14回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例3 Hさん演習 アセスメント（２） | 復習：p 112～p 118 予習：p 117～p 118 |
| 15回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例3 Hさん演習 アセスメント（２） | 復習：p 112～p 118 予習：p 117～p 118 |
| 16回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例3 Hさん演習 個別援助計画 | 復習：p 112～p 118 予習：p 119～p 120 |
| 17回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例3 Hさん演習 個別援助計画 | 復習：p 112～p 118 予習：p 119～p 120 |
| 18回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Aさん演習 個別援助計画 | 復習：p 86～p 93 予習：p 94～p 95 |
| 19回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Aさん演習 個別援助計画 | 復習：p 86～p 93 予習：p 94～p 95 |
| 20回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 個別援助計画 | 復習：p 99～p 106 予習：p 107～p 108 |
| 21回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例2 Dさん演習 個別援助計画 | 復習：p 99～p 106 予習：p 107～p 108 |
| 21回目 | 介護過程の理解 | 介護の実施 介護の実施とは | 予習：p 69～74 |
| 22回目 | 介護過程の理解 | 評価 意義と目的、内容と方法、 | 予習：p 75～p 79 |
| 23回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Aさん演習 評価（モニタリング） | 復習：p 86～p 95 予習：p 96～p 98 |
| 24回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Dさん演習 評価（モニタリング） | 復習：p 86～p 95 予習：p 96～p 98 |
| 25回目 | 介護過程の実践的展開 | 事例1 Hさん演習 評価（モニタリング） | 復習：p 86～p 95 予習：p 96～p 98 |
| 26回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例①からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする |
| 27回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例①からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする |
| 28回目 | 介護過程の実践的 | 配布資料事例①からアセスメントに基 | 復習：配布資料の読み返し |

| | | | |
|-------|------------|--------------------------------------|--|
| | 展開 | づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする |
| 29 回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例②からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする |
| 30 回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例②からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 介護過程Ⅲでは、事例演習が重要なポイントです。その為には、予習を中心とした学習が大切です。予習をしている学生と、していない学生では、授業の理解に大きな差が生じます。教科書をよく読み、授業に参加してください。 |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。 |

| | |
|---------------|-------------|
| 講義科目名称：介護過程IV | 授業コード：31041 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 2年 | 1単位 | 必修 | 演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | <p>介護過程の理論と演習体験を関連づけながら、介護過程の展開ができる。</p> <p>①事例から個別援助計画が作成できる。</p> <p>②長期実習で実践した個別援助計画の振り返りをすることができる。</p> <p>③チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解できる。</p> <p>④自身が立案した個別援助計画を他学生と意見交換しながら、自分自身に不足している視点を、グループワークを通して自ら学び取ることができる。</p> <p>⑤介護福祉士として使命感をもち、学び続ける態度を身につけることができる。</p> |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|--|--------------|------|
| 心豊かな人間力 | ・グループワークにおいて他学生の意見に耳を傾け、お互いに協力しながら個別援助計画を修正する事ができる。 | グループディスカッション | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・3領域の知識を活かし、根拠を示しながら個別援助計画を立案し、効果的な支援計画を作成することができる。 | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | ・根拠のある介護過程展開をイメージしながら、他学生とのコミュニケーションを通して生活課題の解決策を考えることができる | グループディスカッション | 10% |
| 課題解決能力 | ・長期実習における介護過程の展開（アセスメント（1）（2）、個別援助計画実践）の結果を評価し、課題を考え改善することができる | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・介護福祉士として、自身の将来の職業像をイメージすることが出来き、その可能性を考えることができる | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |

補足事項

- ①個別援助計画の要素を理解する。
- ②事例演習から、個別の生活課題や潜在能力の見極めの方法のアセスメントを理解する。
- ③自立支援に沿った個別援助計画の立案・実施・評価・他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。
- ④総合視点（利用者の属性等の個人・環境因子など）様々な状況における事例を通して、介護過程の展開が出来るようになる。
- ⑤介護過程における評価の時期、基準を学習する。

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-----------------|--------------------------------------|--|
| 1 回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例③からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（1）（2）個別援助計画の作成をする |
| 2 回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例④からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（1）（2）個別援助計画の作成をする |
| 3 回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例④からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（1）（2）個別援助計画の作成をする |
| 4 回目 | 介護過程の実践的展開 | 配布資料事例④からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する | 復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（1）（2）個別援助計画の作成をする |
| 5 回目 | 介護過程の実践的展開 | 介護過程の展開まとめ 長期実習前の資料類整理 | 復習：配布資料の読み返し 予習：長期実習に備え、学習内容をまとめる |
| 6 回目 | 長期実習での介護過程の振り返り | 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる | 復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる |
| 7 回目 | 長期実習での介護過程の振り返り | 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる | 復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる |
| 8 回目 | 介護過程とケアマネジメント | 介護過程とケアマネジメントの関係性 | 復習：これまでの授業内容 予習：テキスト p 136～ |

| | | | |
|-------|----------------------|---|------------------------------------|
| | | | p 1 4 6 |
| 9 回目 | 介護過程とケアマネジメント | チームアプローチにおける介護福祉士の役割 事例 1・2 | 復習：これまでの授業内容 予習：p 1 4 8～p 1 5 3 |
| 10 回目 | 介護過程とケアマネジメント | チームアプローチにおける介護福祉士の役割 事例 3 | 復習：これまでの授業内容 予習：p 1 5 3～p 1 5 6 |
| 11 回目 | 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例 1 を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 個別支援計画作成 | 予習：p 1 6 4～p 1 6 6 |
| 12 回目 | 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例 1 を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 グループワーク | 予習：p 1 6 4～p 1 6 6 |
| 13 回目 | 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例 1 を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 グループワーク（教科書読み合わせ） | 予習：p 1 6 4～p 1 7 1 |
| 14 回目 | 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例 2 を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 個別援助計画作成 | 予習：p 1 7 1～p 1 7 3 |
| 15 回目 | 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例 2 を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 グループワーク（教科書読み合わせ） | 予習：p 1 7 1～p 1 7 7 |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 教科書・配布資料等を読み返し、今までに学んだことを復習して授業に望んでください。そうすることで、授業での振り返りやグループワークの理解が深まります。 |
| オフィスアワー | 授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。 |
| 備考・メッセージ | 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。 |

| | |
|-----------------|-------------|
| 講義科目名称：介護総合演習 I | 授業コード：52041 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|-------|
| 通年 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義・演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>介護実習の事前・事後学習を通して、介護実習の目標・目的を理解する。実習マニュアルを学びの軸とし、他科目の進行状況や内容とも関連付けながら、介護福祉士としての生活支援の基礎力、実践力、応用力を身につける。</p> <p>また、実習のルール・提出物の締切を守る、クラスメイトと協力し実習予定を立てる、学外での礼節・約束を守る等の「学生としての基本的行動」を身につける。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|-----------------|------|
| 心豊かな人間力 | ・施設との連絡・調整・訪問等において社会のルールや状況に適した言動・行動ができ、クラスメイトと協力できる。 | オリエンテーション参加の取組み | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・介護実習の事前・事後学習を通して介護福祉士に求められている専門性を理解し、多職種の中でどのような役割をもっているかを理解できる。 ・利用者の居住環境に応じた生活支援の方法を理解している。 | 定期試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | ・利用者を中心とした多職種のコミュニケーションとはどのようなものかを理解している。 | レポート | 10% |
| 課題解決能力 | 実習マニュアルを軸として、目標を設定し、自らの課題に取り組むことができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | 介護福祉士としての職業倫理を理解し授業に取り組むことができる | 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

| |
|--|
| |
|--|

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------------|---|--------------------------------------|
| 1回目 | 介護総合演習での学び | 介護総合演習と介護実習の関わり 2年間のスケジュール | 予習： p 2～p 11 p 14～p 39 |
| 2回目 | 介護総合演習での学び | 介護実習について 5月介護実習について説明 介護老人福祉施設（特養）の特徴 実習先の調査（特養希望調査） | 予習： p 40～p 73 p 109～p 120 |
| 3回目 | 介護総合演習での学び | 実習マニュアル配布 マニュアル説明 目標の立て方（個人票・日別） 日誌の書き方 | 予習： p 40～p 73 p 109～p 120 |
| 4回目 | 介護実習前後の学び | 実習目標について 特養オリエン話し合い 個人票・実習目標提出について | 予習： p 109～p 120 実習マニュアル |
| 5回目 | 介護実習前後の学び | 実習記録用紙の記入方法 日誌の書き方 記録物の提出方法 | 復習： p 109～p 120 実習マニュアル |
| 6回目 | 介護実習に向けて | 実習M説明 実習前に実習Mの再確認 | 予習：実習マニュアル |
| 7回目 | 実習振り返り | 実習の振り返りと自己評価 実習先の調査（GH・希望調査） | 復習：実習マニュアル 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認 |
| 8回目 | 実習先の特徴と学ぶポイント | GHの特徴 実習マニュアルの活用 実習先の調査（障害希望調査） | 復習：実習マニュアル 予習： p 144～p 155 |
| 9回目 | 実習先の特徴と学ぶポイント | 障害者支援施設の特徴 実習マニュアルの活用 | 復習：実習マニュアル 予習： p 180～p 191 |
| 10回目 | 実習先の特徴と学ぶポイント | 訪問介護の特徴 実習マニュアルの活用 実習先の調査（訪問希望調査） | 復習：実習マニュアル 予習： p 74～p 85 |

| | | | |
|-------|---------------|---|--|
| 11 回目 | 介護実習前後の学び | 事前訪問の方法 「GH」記録用紙配布 GHオリエン話し合い | 復習：実習マニュアル 予習：p 144～p 155 |
| 12 回目 | 介護実習前後の学び | 事前訪問の方法 「障害」記録用紙配布 障害オリエン話し合い | 復習：実習マニュアル 予習：p 180～p 191 |
| 13 回目 | 介護実習前後の学び | 事前訪問の方法 「訪問」記録用紙配布 訪問オリエン話し合い | 復習：実習マニュアル 予習：p 74～p 85 |
| 14 回目 | 介護実習前後の学び | 実習記録用紙の記入方法 GH・障害・訪問振り返り用紙配布 | 復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 |
| 15 回目 | 介護実習 I・II の理解 | 実習前確認事項 実習についての注意事項等確認。 ケースレポートを読み、事例研究発表会について理解する 事例研究発表会での役割確認 | 復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 |
| 16 回目 | 事後学習 | 実習の振り替えりと自己評価 振り返り用紙を発表 事例研究発表会スケジュール確認 事例研究発表会での役割確定 | 予習：ケースレポートについて理解し、発表会の運営についても理解する。 |
| 17 回目 | ケースレポート発表会 | ケースレポートを読み、事例研究発表会について理解する 会場準備 | 予習：ケースレポートの理解 |
| 18 回目 | ケースレポート発表会 | ケースレポートを読み、事例研究発表会について理解する | ケースレポート発表会の聴講 |
| 19 回目 | ケースレポート発表会 | ケースレポート聴講の感想を提出する 会場撤去 | 復習：2 年生の抄録などから長期実習での学びを理解する 予習：「ケースレポート発表会に参加して」の感想文を提出 |
| 20 回目 | 事後学習 | 実習の振り替えりと自己評価 実習の振り返り、グループワーク | 予習：実習記録類を読んでおく |
| 21 回目 | 実習先の特徴と学ぶポイント | 介護老人保健施設（老健） 介護老人保健施設について 実習先の調査 | 復習：実習マニュアル 予習：p 97～p 108、p 121～p 131 |
| 22 回目 | 実習先の特徴と学ぶポイント | リハビリテーション病院 リハビリ実習について（宿泊等） | 復習：実習マニュアル 予習：配布資料 |

| | | | |
|-------|---------------|---|---|
| | | 実習先の調査（リハビリ希望調査） | |
| 23 回目 | 実習先の特徴と学ぶポイント | 介護老人福祉施設（特養） 実習先の調査（特養希望調査） | 復習：実習マニュアル 予習：p 109～p 120 |
| 24 回目 | 介護実習前後の学び | 実習先別グループワーク 老健オリエン話し合い役割分担, 目標決め,資料作成 実習先の調査 | 復習：実習マニュアル 予習：p 97～p 108、p 121 ～p 131 |
| 25 回目 | 介護実習前後の学び | 実習先別グループワーク リハビリオリエン話し合い | 復習：実習マニュアル 予習：配布資料 |
| 26 回目 | 介護実習前後の学び | 実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等 | 復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 |
| 27 回目 | 介護実習前後の学び | 実習先別グループワーク 特養オリエン話し合い | 復習：実習マニュアル 予習：p 109～p 120 |
| 28 回目 | 介護実習前後の学び | 実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等 | 復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 |
| 29 回 | 実習振り返り | 帰校日 特養振り返り用紙配布、記入 老健・リハビリ・特養 自己評価 | 復習：マニュアル実習内容 の確認 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認 |
| 30 回 | 実習振り返り | 帰校日 老健・リハビリ・特養 振り返り用紙をもとに発表・グループワーク | 復習：実習マニュアルの確認 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認 |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 テキスト：長崎短期大学介護福祉士実習マニュアル |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 授業には実習マニュアル類を持参してください。 実習への取組みには、学生同士の協力が不可欠です。授業を通して、学生同士のコミュニケーション能力を身につけてください。 |
| オフィスアワー | 授業・実習前後にて対応します。 |
| 備考・メッセージ | 授業の到達目標を理解してください。 |

| | |
|----------------|-------------|
| 講義科目名称：介護総合演習Ⅱ | 授業コード：11041 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|-------|
| 通年 | 2年 | 2単位 | 必修 | 授業・演習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>実習体験を通しての振り返りを、次の実習・実践につなげられるように、目的・目標を常に明確化する。また、他科目の進行状況や内容に、介護実習を関連付けることができるようになる。長期実習後、事例研究にて実践の結果を発表し、介護実践に必要な知識や技術の統合をおこなうとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|----------------|------------|
| 心豊かな人間力 | 介護実習の事前・事後の学びにおいて、自ら考え、行動し、他者の協力を得ながら実習に取り組むことができる。 | 事例研究発表 | 5% |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援技術の専門知識と技術を効果的に活用し、介護が必要な人の生活課題に優先順位をつけ、その人の立場に立ち、3領域の知識を活かした介護を効果的に展開し、その根拠を示しながら発表することができる。 自らの介護観について述べることができる。 | 事例研究発表 定期試験 | 30% 40% |
| コミュニケーション能力 | 実習記録類の記述方法を理解し、教員の指導をもとに問題点を改善し、介護実習・事例研究作成に、効果的に活用することができる。 | 事例研究発表 | 5% |
| 課題解決能力 | 介護実習の振り返りをおこない、実習に関わる自らの課題を自覚し、解決方法を考えることができる。 | レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> 実習の目標や課題を自分で考えることができる。 専門職として自己に求められる課題を把握できる。 | 授業への参加・態度 | 10% |

| | |
|------|------|
| 合計 | 100% |
| 補足事項 | |
| | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------------|--|---|
| 1 回目 | 介護実習Ⅱの意義と目的 | 介護実習Ⅰの振り返り 特養振り返り記入 発表 介護実習Ⅱについて 実習先の調査（長期実習希望調査） | 復習：これまでの実習の日誌類を読んでおくこと 予習：介護老人保健施設・介護老人福祉施設の振り返りレポート、長期実習先の検討をしておくこと |
| 2 回目 | 介護実習Ⅱの意義と目的 | これまでの実習の振り返り グループワーク 実習先の調査（長期実習希望締切） | 復習：これまでの実習の日誌類を読んでおく 予習：長期実習先の検討をしておくこと |
| 3 回目 | 長期実習事前学習 | 長期実習について 長期実習配置発表 「長期実習」記録用紙配布、 個人票目標・実習目標の 検討 | 復習：これまでの実習の日誌類を読んでおく 予習：長期実習マニュアルを読んでおくこと |
| 4 回目 | 長期実習事前学習 | 長期実習について オリエン話し合い（今週アポとり、随時訪問、5/12～5/22日） 個人票目標・実習目標の 確定 | 復習：長期実習マニュアル 予習：実習マニュアルの再確認、前年度の事例研究抄録を読んでおくこと |
| 5 回目 | 長期実習事前学習 | 長期実習について 事例研究の書き方について 参考：過去事例研究論集 | 復習：前年度の事例研究抄録を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認 |
| 6 回目 | 長期実習事前学習 | 長期実習について 長期実習前、日誌類・その他、再確認と注意事項等 | 復習：前年度の事例研究抄録を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認 |
| 7 回目 | 実習中の振り返り（帰校日） | 実習の経過報告 アセスメント（1）（2）の進捗状況確 | 復習：生活支援技術・こころとからだ・認知症の理解 |

| | | | |
|------|-------------------|--|---|
| | | 認、個別援助計画の進捗状況確認 | 等の教科書・ノート類 予習：参考文献等を読んでおく事 |
| 8回目 | 実習中の振り返り (帰校日) | 実習の経過報告 アセスメント(1)(2)の進捗状況確認、個別援助計画の進捗状況確認 | 復習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート 予習：参考文献等を読んでおく事 |
| 9回目 | 実習中の振り返り (帰校日) | 実習の経過報告 個別援助計画の実施状況確認、評価の進捗状況確認 | 復習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート 予習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート、参考文献等を読んでおく事 |
| 10回目 | 実習中の振り返り (帰校日) | 実習の経過報告 個別援助計画の実施状況確認、評価の進捗状況確認 | 復習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート 予習：生活支援技術・こころとからだ・認知症の理解等の教科書・ノート類、参考文献等を読んでおく事 |
| 11回目 | 事後学習 | 介護実習Ⅱ(長期実習)振り返り 介護過程展開の振り返り 長期実習振り返り記入 発表 | 復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：昨年度の事例報告集を閲覧する |
| 12回目 | 事後学習 | 介護実習Ⅱ(長期実習)振り返り 介護過程展開の振り返り 長期実習振り返り記入 発表 | 復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：昨年度の事例報告集を閲覧する |
| 13回目 | 事例研究作成 | 事例研究の書き方の再確認 参考：過去事例報告集 事例研究の提出手順、印刷、評価方法、発表会運営、事例研究の発表方法等 | 復習：事例研究(事例報告集)作成 予習：事例研究(事例報告集)作成 |
| 14回目 | 事例研究作成 | 事例研究(事例報告集)作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める | 復習：事例研究(事例報告集)作成 予習：事例研究(事例報告書)作成 |
| 15回目 | 事例研究作成 | 事例研究(事例報告集)作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める | 復習：事例研究(事例報告集)作成 予習：事例研究(事例報告書)作成 |

| | | | |
|-------|-------------|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 16 回目 | 事例研究作成 | 事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める | 復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成 |
| 17 回目 | 事例研究作成 | 事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める | 復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成 |
| 18 回目 | 事例研究作成 | 事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める | 復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成 |
| 19 回目 | 事例研究製本 | 事例研究（事例報告集）製本 | 復習：発表原稿作成 予習：発表原稿作成 |
| 20 回目 | 事例研究製本 | 事例研究（事例報告集）製本 | 復習：発表原稿作成 予習：発表原稿作成・長期実習先への配布 |
| 21 回目 | 事例研究発表会事前指導 | カルチャーホールにて発表練習 | 復習：発表原稿作成 予習：発表練習 |
| 22 回目 | 事例研究発表会 | 実習指導者、学生、保護者、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会 | 予習：事例報告集 |
| 23 回目 | 事例研究発表会 | 実習指導者、学生、保護者、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会 | 予習：事例報告集 |
| 24 回目 | 事例研究発表会 | 事例研究（事例報告）発表会の振り返り 事例研究発表会の振り返り、講評 | 予習：事例報告集 |
| 25 回目 | 事例研究発表会 | 事例研究（事例報告）発表会の振り返り 事例研究発表会の振り返り、講評 | 予習：事例報告集 |
| 26 回目 | 事例研究発表会振り返り | 事例研究発表会振り返り 振り返りシート記入・グループワーク | 復習：事例報告集 予習：事例報告集 |
| 27 回目 | 事例研究発表会振り返り | 事例研究発表会振り返り 発表・グループワーク | 復習：事例報告集 予習：事例報告集 |
| 28 回目 | 介護総合演習まとめ | 倫理・尊厳とは何か | 復習：これまでの授業等 予習：教科書・文献等 |
| 29 回 | 介護総合演習まとめ | 実習を通して「介護福祉士観」「職業観」について考える | 復習：これまでの授業等 予習：教科書・文献 |
| 30 回 | 介護総合演習まとめ | 「介護観」とは 介護福祉士観の発表 | 予習：「介護観」について考えておくこと |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 テキスト：長崎短期大学介護福祉士実習マニュアル |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 授業には実習マニュアル類を持参してください。 評価について：定期試験、実習前後の実習態度や提出物の内容、実習先の担当職員の評価、事例研究発表、実習報告書、事例検討書の内容等により総合的に評価する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後、放課後など。随時質問に来てください。 |
| 備考・メッセージ | 講義概要、到達目標、評価方法、を確認の上、授業に臨んでください。 特に長期実習前は、実習マニュアルを熟読してください。 事例研究作成には参考文献が不可欠です。図書館の本等沢山の文献を参考にしてください。 |

| | |
|---------------|-------------|
| 講義科目名称：介護実習 I | 授業コード：90141 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|---------------------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 1年 | 5 | 必修 | 実習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美、松永 三千代、 尾村 恵子 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>介護現場での実習を通して、利用者ひとりひとりの生活リズムや個性を理解するという視点から、介護とは何かを学ぶ。利用者、家族との関わりを通じたコミュニケーション、他職種連携、これまで学んだ生活支援技術を実践する基礎的能力を習得する。また、利用者の暮らしや住まいといった環境面を理解しながら、その人らしい生活を維持するための個別ケアの重要性について理解する。</p> <p>①介護実習の意義目的を理解する</p> <p>②人権尊重や自立支援を基本に生活ニーズに関する情報を収集し、生活支援に活かすことができる</p> <p>③実習を通して、実習施設の基本理念、目標を基に利用者の生活・心身の状況に応じた生活支援技術を学ぶ</p> <p>④介護に関する過程、他職種連携、地域連携を学び、介護の探究する姿勢を身につける</p> <p>⑤介護職の職業倫理や姿勢・態度を学び、実践力を身につける</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|---------|------|
| 心豊かな人間力 | ・学校・実習先のルールを守り、状況に適した言動ができる。 | 実習前・中・後 | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | ・生活支援技術の専門知識と技能を概ね習得し、実践をすることができる。 ・3領域の知識を概ね習得し、その知識を活かした介護を実践することができる。 | 実習中 | 60% |
| コミュニケーション能力 | 丁寧な字で実習日誌類（実習目標）を書き、教員の指導を受けながらその内容（文字の丁寧さ、目標の内容）を改善することができる。 | 実習日誌類 | 10% |
| 課題解決能力 | ニーズ・生活課題について情報を収集することができる。指導を受けたことを実践し、その結果を報告することができる。 | 実習中・後 | 10% |

| | | | |
|---------|-------------------------|------|---------|
| 主体的に学ぶ力 | 介護を実践する上での課題に取り組むことができる | 実習前後 | 10% |
| | | | 合計 100% |
| 補足事項 | | | |
| | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-----------|--|-------|
| | 介護老人福祉施設 | 3日間(24時間) <<実習目的>> 高齢者・障害者を知る | |
| | グループホーム実習 | 5日間(40時間) <<実習目的>> 認知症対応型共同生活介護の特徴や役割を知り、利用者の自立支援のための日常生活援助の方法を理解する | |
| | 障害者支援施設実習 | 7日間(56時間) <<実習目的>> 障害者施設の特徴や役割を知り、人権の尊重した個別性のある介護の方法を理解する | |
| | 訪問介護実習 | 2日間(16時間) <<実習目的>> 訪問介護の特性や役割を知り、利用者の特性に応じた生活環境に対する生活支援技術の方法を理解する | |
| | 介護老人保健施設 | 8日間(64時間) <<実習目的>> 介護老人保健施設の特徴と役割を知る。利用者の心身状況に応じた専門職としての視点、及びチームとしての連携方法を踏まえて、生活支援技術を的確に選択し実践できる。ICFに基づいたアセスメントができる。 | |
| | リハビリテーション | 4日間(32時間) | |

| | | | |
|--|-----|--|--|
| | ン病院 | <p>≪実習目的≫</p> <p>リハビリテーション病院の特徴や役割を知り、他職種と連携を図りながら患者様の自立支援に向けた ICF の視点での日常生活援助方法を理解する。</p> | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | <p>テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版</p> <p>テキスト：長崎短期大学介護福祉実習マニュアル。</p> |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | <p>介護実習評価の他、実習前と実習後の取り組みも評価の対象とする。介護実習の評価は実習施設の実習指導者が評価し、その後、教員間で確認する。</p> |
| オフィスアワー | <p>実習前後で対応します。</p> |
| 備考・メッセージ | <p>短大で習ったものを介護現場で確認すること、介護現場での課題を短大に持ち帰り再学習すること、の繰り返しを行ってください。介護実習の前後の課題を大切に取り組んでください。何事にも誠実に取り組んでください。</p> |

| | |
|--------------|-------------|
| 講義科目名称：介護実習Ⅱ | 授業コード：90143 |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|---------------------|-----|-----|--------|------|
| 通年 | 2年 | 5 | 必修 | 実習 |
| 担当教員 | | | | |
| 太田 茂美、松永 三千代、 尾村 恵子 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>介護実習Ⅰで得た知識・技術をもとに利用者の状況に応じた生活支援技術について実践を行う。</p> <p>介護現場での実習を通して、利用者の生活全体を把握した上で利用者一人を担当し、アセスメントからモニタリングまで介護過程の実践を通して、個別介護の重要性を理解する。</p> <p>①観察、コミュニケーション、記録類を通じて得た情報から優先度を考え、生活課題を明確にできる</p> <p>②利用者、家族、他職種とのチームアプローチの必要性を理解し、介護計画の立案を行うことができる</p> <p>③介護過程を展開する中で、専門的・計画的な介護サービスを提供する能力を身につける</p> <p>④利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる</p> <p>⑤介護目標が達成できたか、援助内容が適切であったか、計画を修正する必要があるか評価する力を身につける</p> |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|--|--------|------|
| 心豊かな人間力 | 個別援助計画の短期目標達成にむけ、成功イメージを意識しながら、計画の立案・実施・修正を柔軟に行うことができる。 | 個別援助計画 | 10% |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援技術の専門知識と技能を、効果的に活用することができる。また、3領域の知識を活かした介護を効果的に実践しその根拠を示すことができる。 その人の思いを推測し、引き出しながら、介護が必要な人の生活課題に優先順位をつけ把握し、その改善方法の立案と実践をすることができる。 | 実習中 | 60% |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | <p>テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会「新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規出版</p> <p>テキスト：長崎短期大学介護福祉実習マニュアル</p> |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | 介護実習の評価は、実習施設の実習指導者が評価し、その後、教員間で確認する。 |
| オフィスアワー | 実習の前後で対応します |
| 備考・メッセージ | 実習前後の取り組みを大切にしてください。特に、報告・連絡・相談、を大切にしてください。誰に対しても誠実に接してください。 |

| | |
|------------------|--------|
| 講義科目名称：こころとからだ A | 授業コード： |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、滝川由香里 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 健康とは何かを理解し、からだと密接なつながりをもつこころのしくみについての基礎的な知識を理解する。また、介護職に求められる対応について学ぶ。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|---|--|----------------|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | ・健康とは何かを述べるができる。 ・からだとこころのしくみについて基礎的な知識を理解することができる。 | ・定期試験 ・小テスト | 55% 5% |
| コミュニケーション能力 | ・グループ内で協力し、介護の援助場面でのコミュニケーションのとり方について理解を深めることができる。 | ・グループディスカッション | 10% |
| 課題解決能力 | ・援助する場合の留意点を踏まえ、課題解決の方法について考えを述べるができる。 | ・レポート ・宿題課題 | 10% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| ・本授業では、定期試験55%、小テスト5%、グループディスカッション10%、レポート10%、授業への参加・態度10%、宿題課題10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------------|--|---------------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション、「健康」とは何か | 授業の概要、進め方について説明する。 健康の定義について説明する。 | 予習：教科書 P2～4 を読んでおくこと |
| 2回目 | 「健康」とは何か | 「健康づくり」について理解する。 | 復習： p 2～4 予習： p 4～11 |
| 3回目 | 「健康」とは何か | 健康観、人はなぜ病気になるのかについて理解する。 | 復習： p 5～11 予習： p 14～15 |
| 4回目 | 人間の欲求とは何か | 基本的欲求について理解する。 | 復習： p 14～15 予習： p 16～18 |
| 5回目 | 社会的欲求、自己実現 | 社会的欲求について理解する。 自己実現とは何かについて理解する。 | 復習： p 16～18 予習： p 19～21 |
| 6回目 | 自己実現と尊厳 | 自己概念に影響する要因について理解する。 自立への意欲と自己概念について理解する。 | 復習： p 19～21 予習： p 21～23 |
| 7回目 | 自己実現と尊厳 | 自己実現と尊厳、生きがいについてグループで学びあう。 国際的な取組みについて理解する。 | 復習： p 21～23 予習： p 24 配布資料 |
| 8回目 | こころのしくみの基礎 | 作文を用いて、「こころ」とは何かについて理解する。 | 復習： p 24 予習： p 25～27 |
| 9回目 | こころのしくみの基礎 | 脳のしくみについて理解する。 | 復習： p 25～27 予習： p 28 |
| 10回目 | こころのしくみの基礎 | 認知のしくみについて理解する。 | 復習： p 28 予習： p 28～32 |
| 11回目 | こころのしくみの基礎 | 学習のしくみについて理解する。 | 復習： p 28～32 予習： p 28～32 |
| 12回目 | こころのしくみの基礎 | 記憶・思考のしくみについて理解する。 | 復習： 29～32 予習： p 32～33 |
| 13回目 | こころのしくみの基礎 | 感情のしくみについて理解する。 | 復習： p 32～33 予習： p 32～33 |
| 14回目 | こころのしくみの基礎 | 意欲・動機づけのしくみについて理解する。 | 復習： p 33～34 予習： p 35～37 |
| 15回目 | こころのしくみの基礎 | 適応のしくみについて理解する。 | 復習： p 35～37 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|-----------|--|
| 科目（教職課程用） | |
|-----------|--|

| | |
|---------------------------|---|
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|------------------|--------|
| 講義科目名称：こころとからだ B | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、滝川由香里 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | からだのしくみを学び、対象者の健康状態をアセスメントするための知識、起こりうる生活上の困難さを測るための必要な知識を学ぶ。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|---|--|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・からだのしくみについて基礎的な知識を理解する。 ・介護福祉職に必要な薬の知識について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、からだのしくみについて理解を深めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート | 10% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活上の困難さを理解し、介助の方法について考えを述べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、レポート20%、グ、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------------------|--|------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション からだの部位の役割 | 授業概要と担当について説明する。 細胞・遺伝、身体各部の名称について理解する。 | 復習：P40～42 予習：p43～46 |
| 2回目 | からだの部位の役割 | 脳・神経の構造を理解する。 | 復習：p43～46 予習：p43～46 |
| 3回目 | からだの部位の名称 | 脳・神経系の機能について理解する。 | 復習：p43～46 予習：p46～49 |
| 4回目 | からだの部位の役割 | 感覚器の構造と機能について理解する。 | 復習：p46～49 予習：p49～52 |
| 5回目 | からだの部位の役割 | 呼吸器の構造を理解する。 | 復習：p49～52 予習：p49～52 |
| 6回目 | からだの部位の役割 | 呼吸器の機能について理解する。 | 復習：p49～52 予習：p53～55 |
| 7回目 | からだの部位の役割 | 循環器の構造を理解する。 | 復習：p53～55 予習：p53～55 |
| 8回目 | からだの部位の役割 | 循環器の機能について理解する。 | 復習：p53～55 予習：p55～57 |
| 9回目 | からだの部位の役割 | 消化器の構造について理解する。 | 復習：p55～57 予習：p55～57 |
| 10回目 | からだの部位の役割 | 消化器の機能について理解する。 | 復習：p55～57 予習：p58～59 |
| 11回目 | からだの部位の役割 | 泌尿器の構造と機能について理解する。 | 復習：p58～59 予習：p60～69 |
| 12回目 | からだの部位の役割 | 骨・筋肉の構造について理解する。 | 復習：p60～69 予習：p60～69 |
| 13回目 | からだの部位の役割 | 骨・筋肉の機能について理解する。 | 復習：p60～69 予習：p69～77 |
| 14回目 | からだの部位の役割 | 生殖器・内分泌の構造と機能について理解する。 | 復習：p69～77 予習：p77～82 |
| 15回目 | 介護福祉職に必要な薬の知識 | 介護福祉職に必要な薬の知識について説明する。 | 復習：p77～82 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |

| | |
|----------|---|
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|-----------------|--------|
| 講義科目名称：こころとからだC | 授業コード： |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | からだところは相互に関連し、意欲や人の行動などに影響を及ぼすことを理解し、身体機能の低下や障害により移動やみじたく、入浴や食事、排泄などの生活行動がどのように影響を受けるのかを学ぶ。また、介護福祉職としての具体的な援助のための根拠となる知識を習得する。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|---|--|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・からだところの相互関係を理解し、意欲や行動にどのような影響を及ぼすのかについて理解する。 ・具体的な生活行動への影響及び援助の根拠となる知識について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、からだところのしくみについて理解を深めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活行動への影響を理解し、根拠に基づく介助の方法について考えを述べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・グループによるプレゼンテーション | 5% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---|-------------------------------------|------------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 移動に関連したこ ころとからだのし くみ | 授業概要と担当について説明する。 移動のしくみについて理解する。 | 復習：p 84～99 予習：p 100～105 |
| 2回目 | 移動に関連したこ ころとからだのし くみ | 心身の機能低下が移動に及ぼす影響に ついて理解する。 | 復習：p 100～105 予習：p 106～110 |
| 3回目 | 移動に関連したこ ころとからだのし くみ | 変化の気づきと対応について理解す る。 | 復習：p 106～110 予習：p 111～130 |
| 4回目 | 身じたくに関連し たところとからだ のしくみ | 身じたくのしくみについて理解する。 | 復習：p 111～130 予習：p 131～136 |
| 5回目 | 身じたくに関連し たところとからだ のしくみ | 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影 響について理解する。 | 復習：p 131～136 予習：p 137～145 |
| 6回目 | 身じたくに関連し たところとからだ のしくみ | 変化の気づきと対応について理解す る。 | 復習：p 137～145 予習：p 148～155 |
| 7回目 | 食事に関連したこ ころとからだのし くみ | 食事のしくみについて理解する。 | 復習：p 148～155 予習：p 156～162 |
| 8回目 | 食事に関連したこ ころとからだのし くみ | 心身の機能低下が食事に及ぼす影響に ついて理解する。 | 復習：p 156～162 予習：p 163～170 |
| 9回目 | 食事に関連したこ ころとからだのし くみ | 変化の気づきと対応について理解す る。 | 復習：p 163～170 予習：p 172～183 |
| 10回目 | 入浴・清潔保持に 関連したところと からだのしくみ | 入浴・清潔保持のしくみについて理解 する。 | 復習：p 172～183 予習：p 184～194 |
| 11回目 | 入浴・清潔保持に 関連したところと からだのしくみ | 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及 ぼす影響について理解する。 | 復習：p 184～194 予習：p 195～206 |
| 12回目 | 入浴・清潔保持に 関連したところと からだのしくみ | 変化の気づきと対応について理解す る。 | 復習：p 195～206 予習：p 208～220 |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--------------------|---------------------------|------------------------------|
| 13回目 | 排泄に関連したところとからだのしくみ | 排泄のしくみについて理解する。 | 復習：p 208～220 予習：p 221～231 |
| 14回目 | 排泄に関連したところとからだのしくみ | 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 | 復習：p 221～231 予習：p 232～238 |
| 15回目 | 排泄に関連したところとからだのしくみ | 変化の気づきの対応について理解する。 | 復習：p 232～238 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 11「ところとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|------------------|--------|
| 講義科目名称：こころとからだ D | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 2年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 生理的欲求としての休息・睡眠についてのしくみ、加齢が睡眠に及ぼす影響、睡眠状態の観察のポイントなどについて学ぶ。さらに人生の最終段階にある人のケアに関連したこころとからだのしくみを理解し、具体的なケアの方法について学ぶ。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|---|--|-----------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・休息・睡眠に関する基礎的な知識、人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて理解する。 ・介護福祉職としてのケアの方法について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト | 80% 5% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、休息・睡眠について、さらに人生の最終段階のケアについて理解を深めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠障害を理解し、ケアの方法について考えを述べることができる。 ・人生の最終段階を迎えた人へのケアについて考えを述べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・グループによるプレゼンテーション | 5% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 | 5% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験80%、小テスト5%、レポート10%、授業への参加・態度5%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------------------------------------|---|------------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ | 授業概要と担当について説明する。 なぜ人は睡眠をとるのかについて学ぶ。 | 復習：P 242～247 予習：p 242～247 |
| 2回目 | 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ | 睡眠のしくみについて学ぶ。 | 復習：p 242～247 予習：p 242～249 |
| 3回目 | 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ | 睡眠の質を高める環境や生活習慣について学ぶ。 | 復習：p 242～249 予習：p 250～257 |
| 4回目 | 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ | 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響について学ぶ。 | 復習：p 250～257 予習：p 258～261 |
| 5回目 | 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ | 睡眠の観察のポイントについて学ぶ。 | 復習：p 258～261 予習：p 258～261 |
| 6回目 | 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ | 睡眠での医療職との連携のポイントや緊急対応が必要な状況について学ぶ。 | 復習：p 258～261 予習：p 264～266 |
| 7回目 | 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ | 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について学ぶ。 | 復習：p 264～266 予習：p 267～268 |
| 8回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | 尊厳死(リビングウィル、インフォームドコンセント)について学ぶ。 加齢に伴う自然死について理解する。 | 復習：p 267～268 予習：p 269～274 |
| 9回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | 看取りにかかわる人の価値観について考え、理解する。 | 復習：p 269～274 予習：p 269～274 |
| 10回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | 終末期とは何かを学ぶ。終末期に他印する例からターミナルケアについて学び、理解する。 | 復習：p 269～274 予習：p 269～274 |
| 11回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | ターミナルケア、自己決定、人生の最終段階に行ける医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインなどについて学ぶ。 | 復習：p 269～274 予習：p 275～281 |
| 12回目 | 人生の最終段階に | 死に対する考え方、キューブラー・ロス | 復習：p 275～281 |

| | | | |
|------|-------------------------|---|------------------------------|
| | 関連したところとからだのしくみ | の終末期にある人の死の受容プロセスについて、さらに家族への支援について学ぶ。 | 予習：p 282～285 |
| 13回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | 終末期から臨終期における身体機能の変化について学ぶ。 | 復習：p 282～285 予習：p 286～290 |
| 14回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | 臨終期の対応について学ぶ。 死後のからだの変化や死後の連絡について学ぶ。 | 復習：p 286～290 予習：p 291～299 |
| 15回目 | 人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ | 終末期に置ける医療職との連携について学ぶ。 | 復習：p 291～299 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|-------------------|--------|
| 講義科目名称：発達と老化の理解 I | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、座間味愛理 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 人間の成長・発達の過程における身体的・心理的・社会的変化、老化が生活に及ぼす影響についての基礎的知識を理解する。また、ライフサイクルの特徴に応じた生活支援に必要な基礎的知識を理解する。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|---|----------------------------|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | ・人間の成長・発達の過程における基礎的知識を理解する。 | ・定期試験 ・小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | ・グループ内で協力し、ライフサイクルの特徴について理解を深めることができる。 | ・グループディスカッション | 5% |
| 課題解決能力 | ・人間の成長発達の過程においておこる様々な課題について理解し、生活支援について考えることができる。 | ・レポート ・グループによるプレゼンテーション | 5% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-----------------------------|--|----------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 人間の成長と発達の基礎的知識 | 授業概要と担当について説明する。 発達区分を理解し、生涯の発達をイメージする。 | 復習：P2～9 予習：p2～17 |
| 2回目 | 人間の成長と発達の基礎的知識 | 成長・発達の考え方、成長・発達の原則・法則、成長発達に影響する要因について学ぶ。 | 復習：p2～17 予習：p20～34 |
| 3回目 | 人間の発達段階と発達課題 | 発達理論、発達段階と発達課題について学ぶ。 | 復習：p20～34 予習：p34～54 |
| 4回目 | 人間の発達段階と発達課題 | 身体的機能の成長と発達について学ぶ。心理的機能の発達について学ぶ。 | 復習：p35～54 予習：p47～68 |
| 5回目 | 人間の発達段階と発達課題 | 社会的機能の発達について学ぶ。 | 復習：p47～68 予習：p70～79 |
| 6回目 | 老年期の特徴と発達課題 | 老年期の定義、老化について学ぶ。 | 復習：p70～79 予習：p80～107 |
| 7回目 | 老年期の特徴と発達段階 | 老年期の発達段階、老年期をめぐる今日的課題について学ぶ。 | 復習：p80～107 予習：p80～107 |
| 8回目 | 老年期の特徴と発達段階 | 老年期の発達段階、老年期をめぐる今日的課題について学ぶ。 | 復習：p80～107 予習：p110～142 |
| 9回目 | 老化にともなうところとからだの変化と生活 | 老化にともなう身体的な変化と生活への影響について学ぶ。 | 復習：p110～142 予習：p110～142 |
| 10回目 | 老化にともなうところとからだの変化と生活 | 老化にともなう身体的な変化と生活への影響について学ぶ。 | 復習：p110～142 予習：p143～163 |
| 11回目 | 老化にともなうところとからだの変化と生活 | 老化にともなう心理的な変化と生活への影響について学ぶ。 | 復習：p143～163 予習：p143～163 |
| 12回目 | 老化にともなうところとからだの変化と生活 | 老化にともなう心理的な変化と生活への影響について学ぶ。 | 復習：p143～163 予習：p165～185 |
| 13回目 | 老化にともなうところとからだの変化と生活 | 老化にともなう社会的な変化と生活への影響について学ぶ。 | 復習：p165～185 予習：p165～185 |
| 14回目 | 老化にともなうところとからだの変化と生活 | 老化にともなう社会的な変化と生活への影響について学ぶ。 | 復習：p165～185 予習：p164～185 |
| 15回目 | 老化にともなうこ | 老化にともなう社会的な変化と生活へ | 復習：p164～185 |

| | | | |
|-------|------------------|------------|--|
| | ころとからだの変 化と生活 | の影響について学ぶ。 | |
| 16 回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|------------------|--------|
| 講義科目名称：発達と老化の理解Ⅱ | 授業コード： |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 老化にともなう身体的・心理的・社会的変化や高齢者に多く見られる疾病並びに老化によっておこる生活への影響について理解し、支援に必要な基礎的知識を習得する。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|---|----------------------------|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | ・人間の成長・発達の過程における基礎的知識を理解する。 | ・定期試験 ・小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | ・グループ内で協力し、高齢者に多くみられる疾病や生活への影響について理解を深めることができる。 | ・グループディスカッション | 5% |
| 課題解決能力 | ・人間の成長発達の過程においておこる様々な課題について理解し、生活支援について考えることができる。 | ・レポート ・グループによるプレゼンテーション | 5% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------------------|-------------------------------------|------------------------------|
| 1回目 | 高齢者と健康 | 健康長寿に向けての健康について学ぶ。 | 復習：p 188～195 予習：p 196～201 |
| 2回目 | 高齢者と健康 | 高齢者の症状・疾患の特徴について理解する。 | 復習：p 196～201 予習：p 196～201 |
| 3回目 | 高齢者と健康 | 高齢者の症状・疾患の特徴について理解する。 | 復習：p 196～201 予習：p 202～208 |
| 4回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 骨粗鬆症、高齢者に多い骨折について学ぶ。 | 復習：p 202～208 予習：p 208～216 |
| 5回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 変形性膝関節症、関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症について学ぶ。 | 復習：p 208～216 予習：p 217～223 |
| 6回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 脳神経系の疾患について学ぶ。 | 復習：p 217～223 予習：p 223～235 |
| 7回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 皮膚・感覚器系の疾患について学ぶ。 循環器系の疾患について学ぶ。 | 復習：p 223～235 予習：p 236～241 |
| 8回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 呼吸器系の疾患について学ぶ。 | 復習：p 236～241 予習：p 241～246 |
| 9回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 消化器系の疾患について学ぶ。 | 復習：p 241～246 予習：p 246～251 |
| 10回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 腎・泌尿器系の疾患について学ぶ。 | 復習：p 246～251 予習：p 251～259 |
| 11回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 内分泌・代謝系の疾患について学ぶ。 | 復習：p 251～259 予習：p 259～271 |
| 12回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 歯・口腔疾患、悪性新生物について学ぶ。 | 復習：p 259～271 予習：p 266～281 |
| 13回目 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 悪性新生物、感染症等について学ぶ。 | 復習：p 266～281 予習：p 281～293 |
| 14回目 | 高齢者に多い疾患 | その他の疾患について学ぶ。 | 復習：p 281～293 |

| | | | |
|------|--------------|----------------|--------------|
| | 患・症状と生活上の留意点 | | 予習：p 294～299 |
| 15回目 | 保健医療職との連携 | 多職種との連携について学ぶ。 | 復習：p 294～299 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|-----------------|--------|
| 講義科目名称：認知症の理解 A | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人の現状を理解する。また、認知症の原因となるおもな病気や症状の特徴を学び、引き起こされる機能の変化や日常生活への影響を理解し、個々にあったケアを提供できるための基礎的な知識を学ぶ。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|--|--|-----------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉職として対応するために必要な認知症についての知識を学ぶ。 ・認知症の人の心理や障害の特徴等を理解し、支援のあり方を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト | 80% 5% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、障害福祉に携わる者としてのさまざまな対応について理解を深めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の考え方を理解し、介護福祉職に求められる能力を考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート | 5% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 | 5% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験80%、小テスト5%、レポート10%、授業への参加・態度5%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|---------------------------------|--|--------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 認知症を取り巻く 状況 | 授業概要について説明する。 認知症を取り巻く状況について学ぶ。 | 復習：P100～109 予習：p2～11 |
| 2回目 | 認知症とは何か | 認知症の定義と診断基準、認知症初期 に生じる生活支援について、認知症の 症状の全体像、認知症の特徴について 学ぶ。 | 復習：p2～11 予習：p2～11 |
| 3回目 | 認知症とは何か | 認知症の定義と診断基準、認知症初期 に生じる生活支援について、認知症の 症状の全体像、認知症の特徴について 学ぶ。 | 復習：p2～11 予習：p12～24 |
| 4回目 | 脳のしくみ | 脳の構造・機能、認知症の病理について 学ぶ。 | 復習：p12～24 予習：p12～24 |
| 5回目 | 脳のしくみ | アルツハイマー型認知症について、脳 の構造と症状との関係などについて学 ぶ。 | 復習：p12～24 予習：p12～24 |
| 6回目 | 脳のしくみ | うつの理解、老化と認知症の関係につ いて学ぶ。 | 復習：p12～24 予習：p25～29 |
| 7回目 | 認知症の人の心理 | 不安・喪失感、不安・うつと病識低下、 不安・うつの病態、認知症の人のこころ の理解について学ぶ。 | 復習：p25～29 予習：p110～122 |
| 8回目 | 認知症ケアの理念 と視点 | 認知症ケアの理念等について学ぶ。 | 復習：p110～122 予習：p32～39 |
| 9回目 | 認知症の症状・診 断・治療・予防 | 中核症状について理解する。 | 復習：p32～39 予習：p32～39 |
| 10回目 | 認知症の症状・診 断・治療・予防 | 中核症状について理解する。 | 復習：p32～39 予習：p40～46 |
| 11回目 | 生活障害の理解 | 生活障害、IADL 障害、ADL 障害につ いて学ぶ。 | 復習：p40～46 予習：p47～61 |
| 12回目 | BPSD の理解 | BPSD の定義、BPSD の要因等につ いて学ぶ。 | 復習：p47～61 予習：p62～86 |
| 13回目 | 認知症の理解と重 症度、原因疾患と 症状・生活障害 | 診断、認知症の重症度判定について学 ぶ。アルツハイマー型認知症などにつ いて学ぶ。 | 復習：p62～86 予習：p197～209 |

| | | | |
|-------|-------------------------|---|--------------------------|
| 14 回目 | 認知症の理解と重症度、原因疾患と症状・生活障害 | 診断、認知症の重症度判定について学ぶ。アルツハイマー型認知症などについて学ぶ。 | 復習：p 62～86 予習：p 87～97 |
| 15 回目 | 認知症の治療薬、予防 | 認知症の治療薬、予防の考え方等について学ぶ。 | 復習：p 87～97 |
| 16 回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|-----------------|--------|
| 講義科目名称：認知症の理解 B | 授業コード： |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代 | | | | |

| | |
|------|---------------------------------------|
| 授業概要 | 認知症の理解 A の学びをもとに、認知症のケアの実際について具体的に学ぶ。 |
|------|---------------------------------------|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|--|----------------------------|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | ・介護福祉職として対応するために必要な認知症についての知識を学ぶ。 ・認知症の人の心理や障害の特徴等を理解し、支援のあり方を学ぶ。 | ・定期試験 ・小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | ・グループ内で協力し、障害福祉に携わる者としてのさまざまな対応について理解を深めることができる。 | ・グループディスカッション | 5% |
| 課題解決能力 | ・共生社会の考え方を理解し、介護福祉職に求められる能力を考察することができる。。 | ・レポート ・グループによるプレゼンテーション | 5% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|--|---|------------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 認知症の人の理解 | 授業概要について説明する。 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの 理念と視点について再確認する。 | 復習：p 100～122 予習：p 122～138 |
| 2回目 | 認知症当事者の視 点からみえるもの | 認知症の人の思い、認知症の人の思い を尊重したサポート体制について学 ぶ。 | 復習：p 122～138 予習：p 140～148 |
| 3回目 | パーソン・センタ ード・ケア | パーソン・センタード・ケアについて学 び、その考え方と手技について理解を 深める。 | 復習：p 140～148 予習：p 149～180 |
| 4回目 | 認知症の人の理解 と認知症の人の特 性をふまえたアセ スメント・ツール | DVD を視聴し、認知症の人を理解する 手がかりを得る。また、接し方について 考察する。 | 復習：p 149～180 予習：p 149～180 |
| 5回目 | 認知症の人の理解 と認知症の人の特 性をふまえたアセ スメント・ツール | センター方式やひもときシートについ て学ぶ。また、健康状態のアセスメント について学ぶ。 | 復習：p 153～179 予習：p 181～187 |
| 6回目 | 認知症の人とのコ ミュニケーション | コミュニケーションの基本的な理解、 認知症の人とのコミュニケーションに ついて学ぶ。 | 復習：p 181～187 予習：p 188～215 |
| 7回目 | 認知症の人へのケ ア | 食事のケア、排泄のケア、入浴のケア、 清潔保持のケア、休息と睡眠のケア、活 動・生きがいのケア、BPSD のケアにつ いて学ぶ。 | 復習：p 188～215 予習：p 188～215 |
| 8回目 | 認知症の人へのケ ア | 食事のケア、排泄のケア、入浴のケア、 清潔保持のケア、休息と睡眠のケア、活 動・生きがいのケア、BPSD のケアにつ いて学ぶ。 | 復習：p 188～215 予習：p 217～236 |
| 9回目 | 認知症の人へのさ まざまなアプロ ーチ | ユマニチュード。バリテーション、認知 症ケア・マッピング、回想法、聞き書き に着いて学ぶ。 | 復習：p 217～236 予習：p 237～244 |
| 10回目 | 認知症の人の終末 期医療と介護 | 高齢者全般に関する終末期医療と介 護、認知症の人に関する終末期医療と 介護について学ぶ。ついて学ぶ。 | 復習：p 237～244 予習：p 245～256 |
| 11回目 | 環境づくり | 認知症と環境等について学ぶ。 | 復習：p 245～256 予習：p 258～276 |

| | | | |
|-------|--------------|-------------------------|------------------------------|
| 12 回目 | 介護者支援① | 家族への支援について学ぶ。 | 復習：p 258～276 予習：p 277～291 |
| 13 回目 | 介護者支援② | 介護福祉職への支援について学ぶ。 | 復習：p 277～291 予習：p 294～303 |
| 14 回目 | 認知症の人の地域生活支援 | 制度、サービス、機関、地域づくりについて学ぶ。 | 復習：p 294～303 予習：p 306～323 |
| 15 回目 | 多職種連携と協働 | 多職種連携と協働について学ぶ。 | 復習：p 306～323 |
| 16 回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|----------------|--------|
| 講義科目名称：障害の理解 I | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、白仁田健吾 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 障害の概念と障害者福祉の基本的理念について理解するとともに、障害を持つ人やその家族への支援を行う際の根拠となる知識を学ぶ。また、地域におけるサポート体制や多職種連携について学ぶ。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|-------------|---|--|-----------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念と障害者福祉の基本理念について理解し、介護福祉職としてのあり方を考察する。 ・ 障害のある人の心理や障害の特徴等について理解し、支援のあり方を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 小テスト | 80% 5% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で協力し、障害福祉に携わる者としてのさまざまな対応について理解を深めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の考え方を理解し、介護福祉職に求められる能力が課題解決につながることを学ぶ。 ・ 障害についての自己の考え方について述べ、自己の課題について考えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート | 5% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加・態度 | 5% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |

・本授業では、定期試験80%、小テスト5%、レポート10%、授業への参加・態度5%の割合で評価する。

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|----------------------------|--|----------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 障害の概念 | 授業概要と担当について説明する。 障害のとらえ方や変遷、障害者の定義 について学ぶ。 | 復習：P2～12 予習：p13～15 |
| 2回目 | 障害者福祉の基本 理念 | ノーマライゼーション、リハビリテー ションなど重要な概念について学ぶ。 | 復習：p13～15 予習：p27～36 |
| 3回目 | 障害者福祉に関連 する制度 | 障害者福祉に関する歴史について学 び、障害者にかかる法律の概要につ いて学ぶ。 | 復習：p27～36 予習：p37～44 |
| 4回目 | 障害者福祉制度と 介護保険制度 | 障害者福祉制度と介護保険制度の違 いを学ぶ。 | 復習：p37～44 予習：p46～52 |
| 5回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 障害のある人の心理について学ぶ。 | 復習：p46～52 予習：p54～65 |
| 6回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 肢体不自由(運動機能障害)について学 ぶ。 | 復習：p54～65 予習：p66～73 |
| 7回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 視覚障害について学ぶ。 | 復習：p66～73 予習：p74～84 |
| 8回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 聴覚・言語障害について学ぶ。 | 復習：p74～84 予習：p85～93 |
| 9回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 重複障害について学ぶ。 | 復習：p85～93 予習：p148～156 |
| 10回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 重症心身障害について学ぶ。 | 復習：p148～156 予習：p160～171 |
| 11回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援 | 知的障害について学ぶ。 | 復習：p160～171 予習：p172～183 |

| | | | |
|------|--------------------|----------------|------------------------------|
| 12回目 | 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 | 精神障害について学ぶ。 | 復習：p 172～183 予習：p 184～196 |
| 13回目 | 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 | 高次脳機能障害について学ぶ。 | 復習：p 184～196 予習：p 197～209 |
| 14回目 | 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 | 発達障害について学ぶ。 | 復習：p 197～209 予習：p 210～221 |
| 15回目 | 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 | 難病について学ぶ。 | 復習：p 210～221 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|---------------|--------|
| 講義科目名称：障害の理解Ⅱ | 授業コード： |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 後期 | 1年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 見えない障害である内部障害について学び、どのような支援が必要なのかを理解する。 また、多職種連携と協働のあり方、家族への支援のあり方などの基本的な知識を習得する。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|---|--|--|------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念と障害者福祉の基本理念について理解し、介護福祉職としてのあり方を考察する。 ・ 障害のある人の心理や障害の特徴等について理解し、支援のあり方を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 小テスト | 60% 10% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で協力し、障害福祉に携わる者に求められるさまざまな対応について理解を深めることができる | <ul style="list-style-type: none"> ・ グループディスカッション | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の考え方を理解し、介護福祉職に求められる能力について理解を深める。 ・ 障害者支援についての自己の考え方を整理し、自己の課題について述べるができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート ・ グループによるプレゼンテーション | 5% 10% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-----------------------------|--|----------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 内部障害 | 授業概要について説明する。 心臓機能障害について学ぶ。 | 復習：P94～102 予習：p94～102 |
| 2回目 | 内部障害 | 心臓機能障害について学ぶ。 | 復習：p94～102 予習：p102～111 |
| 3回目 | 内部障害 | 呼吸機能障害について学ぶ。 | 復習：p102～111 予習：p111～119 |
| 4回目 | 内部障害 | 腎機能障害について学ぶ。 | 復習：p111～119 予習：p119～133 |
| 5回目 | 内部障害 | 膀胱・直腸機能障害について学ぶ。 小腸機能障害について学ぶ。 | 復習：p119～133 予習：p133～141 |
| 6回目 | 内部障害 | ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能 障害について学ぶ。 | 復習：p133～141 予習：p141～146 |
| 7回目 | 内部障害 | 肝機能障害について学ぶ。 | 復習：p141～146 予習：p210～221 |
| 8回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援Ⅱ | 難病の理解と難病の特性に応じた支援 について学ぶ。 | 復習：p210～221 予習：p210～221 |
| 9回目 | 障害別の基礎的理 解と特性に応じた 支援Ⅱ | A L S、パーキンソン病、悪性関節リウ マチ、筋ジストロフィーについて学ぶ。 | 復習：p210～221 予習：p224～228 |
| 10回目 | 連携と協働 | 地域のサポート体制について学ぶ。 | 復習：p224～228 予習：p228～237 |
| 11回目 | 連携と協働 | 障害福祉サービスの提供のしくみ等につ いて学ぶ。 | 復習：p228～237 予習：p238～247 |
| 12回目 | 連携と協働 | チームアプローチについて学ぶ。 | 復習：p238～247 予習：p250～261 |
| 13回目 | 家族への支援 | 家族への支援について学ぶ。 | 復習：p250～261 予習：p250～261 |
| 14回目 | 家族への支援 | 家族への支援について学ぶ。 | 復習：p250～261 予習：p262～275 |
| 15回目 | 家族への支援 | 家族の介護力の評価と介護負担の軽減 について学ぶ。 | 復習：p262～275 |
| 16回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|----------------|--------|
| 講義科目名称：医療的ケア A | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 2年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、滝川由香里 | | | | |

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 医療職と連携し、介護福祉士として喀痰吸引を安全で適切に実施できるようになるための基礎的知識を習得する。 |
|------|---|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|--|---|-----------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・医行為に関する法律、介護福祉職による喀痰吸引等制度について学ぶ。 ・安全に実施するために必要な基礎的知識と手順について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・演習 | 80% 5% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施にあたって必要となる医師の指示の確認、対象への説明、医療職への報告や記録について理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づき喀痰吸引を実施することを十分に理解したうえで、わからないことを明確にする力を身につけるように努力する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・演習 | |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験80%、小テスト10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-----------------------------|--|-------------------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 医療的ケア実施の 基礎 | 授業概要と担当について説明する。 医療的ケアとは何か、医行為について 喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸 引等の背景、その他の制度 | 復習：P2～36 予習：p2～36 |
| 2回目 | 医療的ケア実施の 基礎 | 医療的ケアとは何か、医行為について 喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸 引等の背景、その他の制度 | 復習：p2～36 予習：p37～48 |
| 3回目 | 安全な療養生活 | 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 | 復習：p37～44 予習：p44～61 p284～292 |
| 4回目 | 安全な療養生活 | 救急蘇生 | 復習：p44～61 予習：p44～61, p284～292 |
| 5回目 | 安全な療養生活 | 救急蘇生 | 復習：p44～61 p284～292 予習：p62～78 |
| 6回目 | 清潔保持と感染予 防 | 感染予防、介護福祉職の感染予防、療養 環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌 | 復習：p62～78 予習：p62～78 |
| 7回目 | 清潔保持と感染予 防 | 感染予防、介護福祉職の感染予防、療養 環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌 | 復習：p62～78 予習：p116～137 |
| 8回目 | 子どもの吸引につ いて | 子どもの吸引について | 復習：p116～137 予習：p79～91 |
| 9回目 | 健康状態の把握 | 健康状態の把握 | 復習：p79～91 予習：p79～91 |
| 10回目 | 健康状態の把握 | 健康状態の把握 | 復習：p79～91 予習：p94～99 |
| 11回目 | 高齢者および障害 児・者の喀痰吸引 概論 | 呼吸のしくみとはたらき いつもと違う呼吸状態 | 復習：p94～99 予習：p94～104 |
| 12回目 | 高齢者および障害 児・者の喀痰吸引 概論 | 呼吸のしくみとはたらき いつもと違う呼吸状態、喀痰吸引とは、 喀痰吸引が必要な状態 | 復習：p94～104 予習：p104～116 |
| 13回目 | 高齢者および障害 児・者の喀痰吸引 概論 | 人工呼吸器と吸引、吸引を受ける利用 者や家族の気持ちと対応、説明と同意、 | 復習：p104～116 予習：p118～135 |
| 14回目 | 高齢者および障害 児・者の喀痰吸引 | 呼吸器系の感染と予防、喀痰吸引によ り生じる危険、事後の安全確認、急変・ | 復習：p118～135 予習：p138～162 |

| | | | |
|------|------------------------|--------------------|------------------------------|
| | 概論 | 事故発生時の対応と事前対策 | |
| 15回目 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順 | 復習：p 138～162 予習：p 138～162 |
| 16回目 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順 | 復習：p 138～162 予習：p 138～162 |
| 17回目 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順 | 復習：p 224～246 予習：p 224～246 |
| 18回目 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順 | 復習：p 224～246 |
| 19回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|----------------|--------|
| 講義科目名称：医療的ケア B | 授業コード： |
| 英文科目名称： | |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|------|
| 前期 | 2年 | 2単位 | 必修 | 講義 |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、滝川由香里 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 医療職と連携し、介護福祉士として経管栄養を安全で適切に実施できるようになるための基礎的な知識を習得する。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--|--|---|-----------------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・医行為に関する法律、介護福祉職による喀痰吸引等制度について学ぶ。 ・安全に実施するために必要な基礎的知識と手順について学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・演習 | 70% 5% 5% |
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施にあたって必要となる医師の指示の確認、対象への説明、医療職への報告や記録について理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト | 5% |
| 課題解決能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づき経管栄養を実施することを十分に理解したうえで、わからないことを明確にする力を身につけるように努力する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・演習 | 5% |
| 主体的に学ぶ力 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験70%、小テスト10%、演習10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|-----------------------------|---|------------------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 医療的ケア実施の 基礎 | 授業概要と担当について説明する。 医療的ケアとは何か、医行為について 喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸 引等の背景、その他の制度 | 復習：P2～36 予習：p2～36 |
| 2回目 | 医療的ケア実施の 基礎 | 医療的ケアとは何か、医行為について 喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸 引等の背景、その他の制度 | 復習：p2～36 予習：p37～48 |
| 3回目 | 安全な療養生活 | 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 | 復習：p37～44 予習：p44～61 p284～292 |
| 4回目 | 安全な療養生活 | 救急蘇生 | 復習：p44～61 予習：p44～61 p284～292 |
| 5回目 | 安全な療養生活 | 救急蘇生 | 復習：p44～61 p284～292 予習：p62～78 |
| 6回目 | 清潔保持と感染予 防 | 感染予防、介護福祉職の感染予防、療養 環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌 | 復習：p62～78 予習：p164～199 |
| 7回目 | 高齢者および障害 児・者の経管栄養 概論 | 高齢者および障害児・者の経管栄養概 論（経管栄養の種類としくみ、経管栄養 で使用される栄養剤、子どもの経管栄 養における留意点、経管栄養の感染予 防策、経管栄養により生じる危険、急 変・事故発生時の対応と再発防止 | 復習：p164～199 予習：p164～199 |
| 8回目 | 高齢者および障害 児・者の経管栄養 概論 | 高齢者および障害児・者の経管栄養概 論（経管栄養の種類としくみ、経管栄 養で使用される栄養剤、子どもの経管栄 養における留意点、経管栄養の感染予 防策、経管栄養により生じる危険、急 変・事故発生時の対応と再発防止 | 復習：p164～199 予習：p164～199 |
| 9回目 | 高齢者および障害 児・者の経管栄養 概論 | 高齢者および障害児・者の経管栄養概 論（経管栄養の種類としくみ、経管栄 養で使用される栄養剤、子どもの経管栄 養における留意点、経管栄養の感染予 防策、経管栄養により生じる危険、急 変・事故発生時の対応と再発防止 | 復習：p164～199 予習：p164～199 |
| 10回目 | 高齢者および障害 | 高齢者および障害児・者の経管栄養概 | 復習：p164～199 |

| | | | |
|------|------------------------|---|------------------------------|
| | 児・者の経管栄養概論 | 論(経管栄養の種類としくみ、経管栄養で使用される栄養剤、子どもの経管栄養における留意点、経管栄養の感染予防策、経管栄養により生じる危険、急変・事故発生時の対応と再発防止) | 予習：p 200～222 |
| 11回目 | 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 | 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告・記録 | 復習：p 200～222 予習：p 200～222 |
| 12回目 | 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 | 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告・記録 | 復習：p 200～222 予習：p 200～222 |
| 13回目 | 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 | 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告・記録 | 復習：p 200～222 予習：p 247～283 |
| 14回目 | 経管栄養のケア実施の手引き | 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 | 復習：p 247～283 予習：p 247～283 |
| 15回目 | 経管栄養のケア実施の手引き | 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 | 復習：p 247～283 予習：p 247～283 |
| 16回目 | 経管栄養のケア実施の手引き | 経鼻経管栄養 | 復習：p 247～284 予習：p 247～284 |
| 17回目 | 経管栄養のケア実施の手引き | 経鼻経管栄養 | 復習：p 247～284 予習：p 247～284 |
| 18回目 | 経管栄養のケア実施の手引き | 経鼻経管栄養 | 復習：p 247～284 |
| 19回目 | 定期試験 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目(教職課程用) | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 |
| 履修条件 | |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |

| | |
|----------------|--------|
| 講義科目名称：医療的ケア C | 授業コード： |
| 英文科目名称： | 実務教員 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 | 授業形態 |
|-------------|-----|-----|--------|--------|
| 後期 | 2年 | 1単位 | 必修 | 演習（実習） |
| 担当教員 | | | | |
| 松永三千代、滝川由香里 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業概要 | 医療職との連携のもと、医療的ケアを安全・適切に実施できるようになるための基礎的知識・技術を習得する。 |
|------|--|

| 資質・能力 | 授業における到達目標 | 評価方法 | 評価比率 |
|--------------------------------------|---|------------|------|
| 心豊かな人間力 | | | |
| 確かな専門的知識 や技能 | ・介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景、安全に実施するための基礎的知識・技術を修得する。 | ・実技試験 | 60% |
| コミュニケーション能力 | ・演習を通して、医療的ケアの提供について、説明と同意を得ることができるようになる基礎を学ぶ。 | ・実技試験 | 20% |
| 課題解決能力 | ・安全に実施するための自己の課題を明確にすることができる。 | ・実技試験 | 10% |
| 主体的に学ぶ力 | ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 | ・授業への参加・態度 | 10% |
| 合計 | | | 100% |
| 補足事項 | | | |
| ・本授業では、実技試験90%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 | | | |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|----------------------------------|---|-----------------------------|
| 1回目 | オリエンテーション 喀痰吸引、経管栄養 実技試験準備 | 授業概要と実技評価について理解し、 実技評価を受けるための諸準備を行う。 (指示確認、手洗い、必要物品の確認、 環境整備、観察、報告、記録) | 予習：p 94～159 復習 p 164～219 |
| 2回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 3回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 4回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 5回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 6回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 7回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 8回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 9回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 10回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 11回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 12回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 13回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 14回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 15回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 16回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 17回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、 報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |

| 授業計画 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|------|------|---------------------------|-----------------------------|
| 18回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 19回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 20回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 21回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 22回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 23回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 24回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 25回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 26回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 27回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 28回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 29回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |
| 30回目 | 実技評価 | 必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録 | 予習、復習：p 94～159 p 164～219 |

| | |
|---------------------------|--|
| 科目（教職課程用） | |
| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」中央法規出版会を使用する。医療的ケアについての DVD も視聴する。 |
| 履修条件 | 前期に医療的ケア A、医療的ケア B の履修が必要である。 |
| 履修上の注意 | |
| オフィスアワー | 授業時間前後に教室で質問を受けつける。 |
| 備考・メッセージ | |